

年報 2018 年度

(No.1)

目 次

巻頭言	1
運営組織(大学)	2
教員組織	3
委員会報告	4
教育活動報告.....	29
研究活動報告.....	46
社会活動等報告.....	49
あとがき.....	51

巻頭言

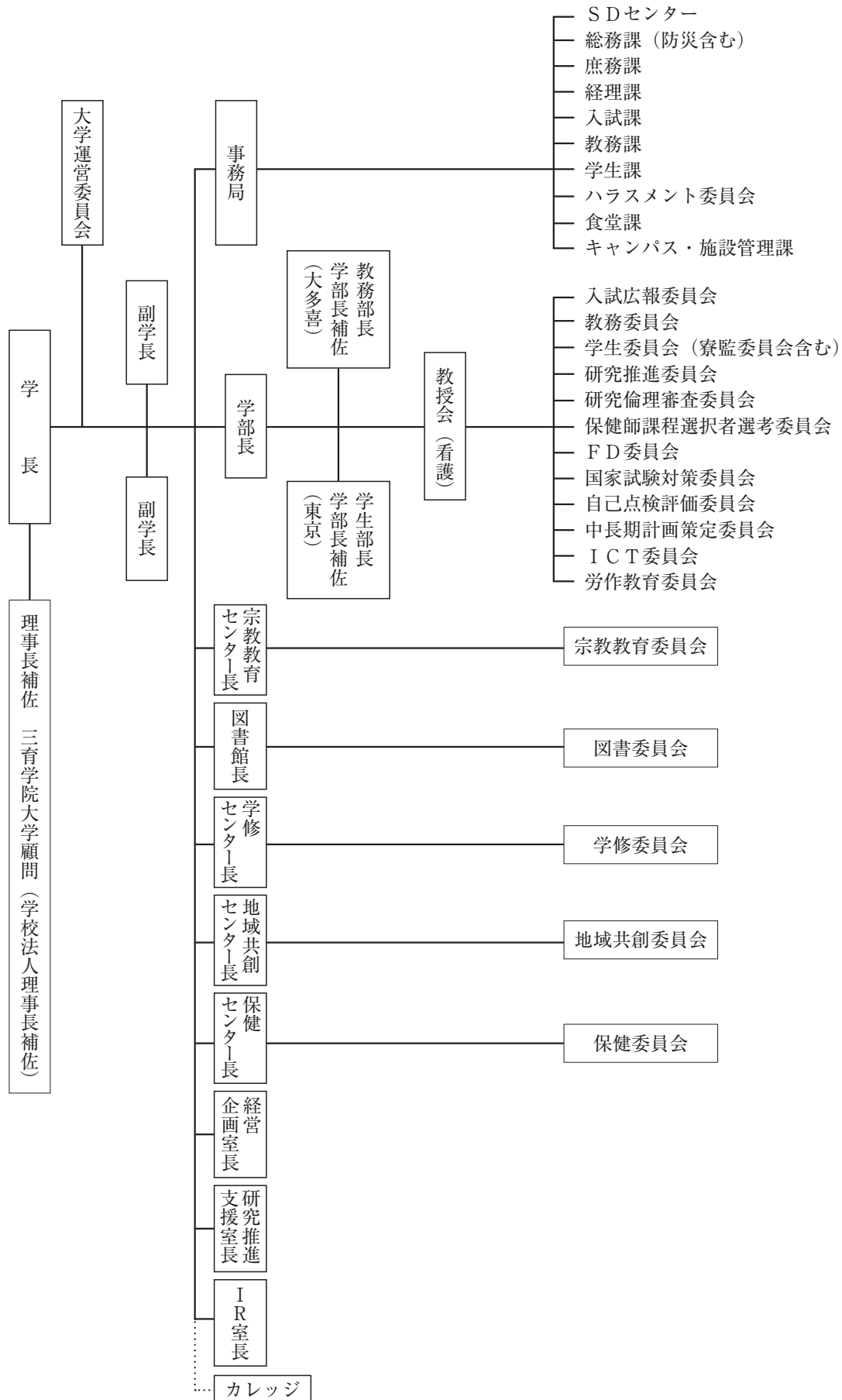
三育学院大学の教育や研究そして地域と連携した働きが「年報」としてまとめられました。三育学院の教育の歴史が記録として残され、振り返りの機会を提供し、次年度に、さらに未来に向かって行くべき道を照らす光となることを願っています。

「年報」は今後年を追う毎にその内容を豊かにし、頁数を増して行くことでしょうか。そのような意味で第一歩を踏み出した意義は大きいと考えています。

「年報」の発行に当たり、その必要性を訴え、リーダーシップを発揮してくれた副学長・学部長の鈴木純恵先生、忍耐強く編集作業に取り組んでくださった研究推進委員会委員長の篠原清夫教授、そしてスタッフの皆様に心から感謝を申し上げます。

三育学院大学
学長 東出 克己

運営組織 (大学)



教員組織

三育学院大学 看護学部 看護学科

学 長 教授	東出 克己
副学長 教授	山地 正
副学長 学部長 教授	鈴木 純恵
学部長補佐 教授	後藤 佳子
学部長補佐 教授	浦橋 久美子

【基礎看護学・看護管理領域】

教授	後藤 佳子
特任教授	本郷 久美子
講師	遠田 きよみ
講師	山口 道子

【地域看護学・公衆衛生領域】

教授	浦橋 久美子
特任教授	佐藤 壽子
講師	緑川 喜久代
助教	小田 朋子

【母性看護学・小児看護学領域】

教授	廣瀬 幸美
特任准教授	篠原 良子
講師	山田 よしみ
助教	清野 星二

【教養教育・専門基礎領域】

教授	東出 克己
教授	山地 正
教授	篠原 清夫
教授	山本 理
特任教授	黒須 潤
講師	サムエル コランテン
講師	新妻 規恵
客員教授	新原 豊

【成人看護学領域】

教授	鈴木 純恵
准教授	今野 玲子
講師	近藤 かおり
講師	處 千恵美
助教	新井 由実
助教	松本 文美

【大学院設置準備室】

副学長 学部長 教授	鈴木 純恵 (慢性看護学)
教授	廣瀬 幸美 (母子看護学)

【老年看護学領域】

特任教授	市川 光代
助手	白木 沙知

【精神看護学領域】

准教授	松本 浩幸
-----	-------

委員会報告

入試広報委員会

1. 構成員

委員長：鈴木純恵

委員：浦橋久美子（副委員長：大多喜）、後藤佳子（副委員長：東京）、小田朋子、篠原清夫、松本文美、山口道子、池田直子、伊能雅代、榊原拓己、伴二郎、平澤久美子、諸見里優子、山口伊作

書記：伊能雅代、榊原拓己、諸見里優子、山口伊作

2. 職務

1) 入試業務に関すること（方針策定、運営管理）

委員会が策定する方針に基づき、入試課が入試業務を実行し、委員会が評価する。

2) 学生募集に関する広報活動と運営管理（OC、体験セミナー 等）

3. 活動

1) 委員会記録

開催日	出席者数：委員定数 13 名 主な決議事項、〈 〉内は討議報告事項
第 1 回 2018.04.11	参加：13 名 委員会年間スケジュール、入試日程、OC 方針と担当者、広島三育学院体験ツアー及びカレッジツアー、〈入試結果報告、4 月～6 月予定〉
第 2 回 2018.04.23	12 名 指定校承認（追加・削除・評定値変更）、推薦入試日程の一部変更、千葉県内高校訪問、豊文堂 HP 更新作業委託
第 3 回 2018.05.23	13 名 指定校変更及び追加、入試監督担当者一覧、イベント担当者一覧、入試要項の一部変更、〈5 月及び 6 月の広報活動、募集要項簡易版の作成、6 月 15 日 OC 広告〉
第 4 回 2018.06.13	13 名 指定校変更及び追加、入試監督担当者修正、入試要項の一部修正、入試作問者、東京 OC プログラム、委員会メンバー追加、〈DM 発送状況、千葉県内高校訪問報告、大多喜 OC 準備状況、高校説明会準備状況〉
第 5 回 2018.07.11	13 名 指定校追加、〈6 月 15 日 OC 報告、日大二高出張講義、6 月 24 日沖縄体験セミナー報告、作問委員会、中期計画〉
第 6 回 2018.09.05	13 名 入試スケジュール及び担当者、AO 第 I 期入試要項
第 7 回 2018.10.10	10 名 11 月 4 日入試実施要項、AO 第 I 期入試要項
第 8 回 2018.11.16	10 名 11 月 4 日までの入試振返り、OC 及び体験セミナー日程、〈パンフレット作成、公募 II 期出願状況、行事報告〉
第 9 回 2018.12.13	12 名 指定校推薦基準変更、OC 及び体験セミナー日程、〈2019 年度系列校入試日程〉
第 10 回 2019.01.16	12 名 OC 及び体験セミナー日程、〈2019 年度イベントスケジュール、高校説明会、新年度パンフレット作成担当〉
第 11 回 2019.03.13	11 名 2019 年度 OC 日程の変更、〈一般 III 期入試結果報告、2019 年度系列校入試日程、3 月実施 OC〉

2) イベント

開催日	内容	参加者数
2018.06.15	OC・大多喜	7組 17名、業者 1名
2018.06.24	体験セミナー・沖縄	33組 33名
2018.07.22	OC・大多喜	15組 37名
2018.08.05	OC・大多喜	13組 23名
2018.08.09	体験セミナー・沖縄	55組 55名
2018.08.21	教員対象説明会・東京	9組 9名、業者 2名
2018.08.26	OC・大多喜	14組 25名
2018.08.30	OC・東京	34組 50名、業者 2名
2018.09.02	体験セミナー・神戸	7組 7名
2018.09.23	OC・東京	17組 26名
2018.10.28	OC・東京	14組 20名、高校教員 1名
2018.11.18	OC・東京	8組 13名
2019.03.24	OC・大多喜	14組 35名
2019.03.26	OC・東京	4組 7名

4. 課題

1) 入試業務

(1) 本学に適した学生を確保するための入試内容の検討

2018 年度入試では、前年度入試から AO 入試回数を減少する変更を行った。

入試区分毎の回数、内容などより効果的な入試とする検討を続ける。

指定校入試について、ガイドライン・学校一覧の精査と検討を続ける。

(2) 入試改革への対応

2020 年度入試より導入される入試改革への対応を進める。

入試改革へ付随するポリシーの再検討。

2) 学生募集業務

出願数を確保、増加するための方策

2019 年度入試は最終的に目標合格者数を確保できたが、出願数自体は減少。

出願倍率 3 倍へ近づけるための方策を検討、実行すること。

資料請求から来校割合を増加する方策。

Web の更新など、インターネット媒体をより効果的に利用する検討と実行。

教務委員会

1. 構成員

委員長：浦橋久美子

委員：市川光代、後藤佳子、今野玲子、篠原良子、松本浩幸、山本理、平澤久美子、山口伊作

書記：今野玲子（3月：山本理）

2. 職務

- 1) 教育課程の編成及び実施に関すること
- 2) 授業科目の履修についての連絡調整に関すること
- 3) 単位制に関すること（入学生の単位認定等）
- 4) 学業成績の評定に関すること（進級に関する検討等）
- 5) 卒業認定並びに制度に関すること
- 6) 編入学に関すること
- 7) その他教務に関する重要事項

3. 活動

- 1) カリキュラムのあり方の検討

2017年度からの継続課題として、カリキュラムワーキンググループを置きカリキュラムの検討をした。特に、本学の理念達成のためのカリキュラムのあり方をグループ内で検討するとともに、カレッジ教員の協力のもと検討した。

- 2) 教育内容の充実を図るための検討

- (1) 実習ワーキンググループを置き、効果的な実習配置、実習内容等の検討をした。
- (2) 3年次領域別実習へむけての取り組み、学力不振学生への取り組み方法などの検討をした。

- 3) 成績評価に関する検討

- (1) 各学期の成績評価の妥当性を審議した。
- (2) 卒業認定について審議した。

- 4) 学習環境の整備

- (1) 東京2学年に伴う履修のあり方、備品などを検討し、学習環境の整備に努めた。
- (2) 効果的な学修、学生の公平性、現状などの視点から教務規程を見直した。
- (3) 図書委員会、学修センター、保健センター等と連携し、学習環境の整備に努めた。

- 5) 学生対応

- (1) 退学、休学、長期欠席など適正か審議した。
- (2) 課題のある学生の情報交換・共有をし、教員間で一貫かつ適切な対応をすることに努めた。

- 6) その他

2019年度教務システムの構築に向けて教務課と連携し、システムのあり方を検討した。

4. 課題

- 1) カリキュラムのあり方

社会情勢が大きく変化する中、本学の理念および将来の看護職に求められる能力を培うための教育の内容や方法について検討すると同時に2020年度新カリキュラム開始を目標に準備を進める。

- 2) 学習環境の整備

東京2学年開始1年が経過するため、学生・教員・環境・・・などの視点から1年を振り返り、環境整備に努める。

- 3) 新教務システム導入の影響の評価

2018 年度教務委員会における審議事項・検討事項・報告事項

No.	実施	審議事項・検討事項・報告事項の内容
1	2018 年 4 月 11 日	<p>審議事項</p> <p>1. 学生の単位認定 2. 学生の休学</p> <p>検討事項</p> <p>1. 新カリキュラム 2. 学生の退学 3. 実習要項の基本事項</p> <p>報告事項</p> <p>1. 学力向上のための取り組み</p> <p>2. 2017 年度後期成績入力</p> <p>3. その他</p>
2	2018 年 4 月 17 日(メール会議)	<p>審議事項</p> <p>1. 学生の単位認定</p>
3	2018 年 5 月 11 日	<p>審議事項</p> <p>1. 今年度の委員会方針</p> <p>2. 基礎看護学実習 I の学生配置</p> <p>検討事項</p> <p>1. 新カリキュラム</p> <p>2. 2019 年度実習スケジュール案</p> <p>報告事項</p> <p>1. 学生の長期欠席 2. 学生の状況</p> <p>3. 学生の忌引き 4. 前期アセンブリー</p>
4	2018 年 6 月 13 日	<p>審議事項</p> <p>1. 新カリキュラム申請時期の延長</p> <p>2. 2018 年度総合看護実習学生配置案</p> <p>3. 3 年次学生の実習に向けての取り組み提案</p> <p>4. 2018 年度科目別図書購入費配分</p> <p>5. 2018 年度領域別看護実習学生配置案</p> <p>6. 2019 年度領域別看護実習スケジュール</p> <p>検討事項</p> <p>1. 教務課システム</p> <p>2. 非常勤講師担当科目の図書及び視聴覚資料リクエスト</p> <p>3. 東京校舎図書室の新規購入図書</p> <p>報告事項</p> <p>1. 2018 年度科目別図書購入申込書</p> <p>2. 2018 年度 8 月図書館開館スケジュール</p> <p>3. 実習等交通費</p> <p>4. 学生の退学</p> <p>5. 2018 年度後期東京校舎アセンブリー</p>
5	2018 年 7 月 11 日	<p>決議事項</p> <p>1. 4 年生グループアドバイザーの交換</p> <p>検討事項</p> <p>1. 領域別看護実習中の学習の取り組み</p> <p>報告事項</p> <p>1. 実習ワーキンググループからの報告</p> <p>2. 停学者の単位認定</p> <p>3. 留年者のアセンブリーの履修</p> <p>4. 長期欠席の扱い</p> <p>5. 試験のあり方</p> <p>6. 教育の質保証セミナー報告</p>
6	2018 年 9 月 12 日	<p>決議事項</p> <p>1. 学生の退学</p> <p>2. 学生の休学</p> <p>3. 大多喜キャンパスと東京校舎の教員の情報共有</p> <p>検討事項</p> <p>1. 1・2 年生が単位修得できなかった場合の対応</p> <p>2. 次年度からの教務システムの変更</p> <p>3. 海外研修時の予防接種</p> <p>報告事項</p> <p>1. 3 年生の接遇・マナー講座</p> <p>2. 東京衛生病院師長からの 9 月一斉オリエンテーション</p> <p>3. 東京衛生病院電子カルテオリエンテーションと学生 ID 発行</p> <p>4. 東京 2 学年開始後の混乱への対応</p> <p>5. 2019 年度実習費用の負担についての学生への周知</p> <p>6. 学生状況の共有</p>

No.	実施	審議事項・検討事項・報告事項の内容
7	2018年10月3日	決議事項 1.前期の成績評価 検討事項 1.東京2学年開始にあたり大多喜キャンパスでの履修科目を修得できなかった場合の対応 報告事項 1.学生の退学
8	2018年11月14日	決議事項 1.大多喜キャンパスでの履修科目を修得できなかった場合の対応 2.薬理学の非常勤講師の推薦 3.学生の処遇 4.臨地実習要項基本事項 p.9 の加筆 検討事項 1.授業の学生の出席 報告事項 1.レポート提出時の鍵付きメールボックスの活用 2.小テストの返却方法
9	2018年11月25日(メール会議)	決議事項 1.3年生の成人看護学実習Ⅱの補習実習
10	2018年12月12日	決議事項 1.2019年度非常勤講師の依頼の変更 2.教務規程の変更 3.保健師課程の履修 4.教育の質保証に関するチェックリスト 検討事項 1.授業評価の公開方法 報告事項 1.第2回東京衛生病院実習指導者連絡会の報告 2.保健センターからの報告 3.教育の質保証に関する制度としての大学全体の取り組み
11	2019年1月17日(メール会議)	決議事項 1.卒業前演習の実施
12	2019年1月23日	決議事項 1.次年度教務システム変更に伴う科目のナンバーリング 検討事項 1.学生ハンドブック 教務規程 第22条 実習の補習 2.学生の報告システム 報告事項 1.カリキュラムワーキンググループ経過報告 2.学生の報告
13	2019年2月13日	決議事項 1.4年生の成績について 2.卒業認定について 3.学生ハンドブック 教務規程に関する提案 4.学生ハンドブック 教務規程の変更 5.2019年度領域別看護実習スケジュール変更案 6.非常勤講師の依頼 検討事項 1.卒業時アンケート(学生によるカリキュラム評価) 報告事項 1.2年生補習 2.3年生補習 3.2019年度予算
14	2019年3月13日	決議事項 1.1年生、2年生、3年生の成績評価 2.補習の規定 3.2019年度実習スケジュール 4.学生の学籍変更 5.再履修科目を大多喜キャンパスで履修することについて 報告事項 1.学生報告 2.新カリキュラムの科目ナンバー 3.総合実習

学生委員会

1. 構成員

委員長：後藤佳子

委員：松本浩幸（副委員長）、山口道子、増田敦、増田郁子、石渡美由紀、野口盛子、諸見里優子
（白木沙知、池田直子、上谷佳弘、佐藤春枝、下村豪、棚橋浩史、山地純：以上必要時に要請）

書記：石渡美由紀

2. 職務

- 1) 学生からのイベント企画申請、車両申請、学内アルバイト申請、入退寮の申請の承認
- 2) 各種奨学金の申請の審査、決定
- 3) 学生間で起こる諸問題の審議
- 4) 学寮・ハウジングに関する検討と規程の整備
- 5) 学食と食の安全に関する検討と指導

3. 活動

- 1) 学生からのイベント企画申請、車両申請、学内アルバイト申請、入退寮の申請の承認
- 2) 各種奨学金の申請の審査、決定
- 3) 学生間で起こる諸問題の審議
- 4) 新たな取組・作成
 - (1)行事や課外活動に関するアンケートの実施
 - (2)「イベント承認ガイドライン」の完成
 - (3)「食品取扱ガイドライン」の完成
 - (4)「食中毒・感染症対応マニュアル」の完成
 - (5)サフラン・オリーブハイツ入居規程の完成
 - (6)入居に関するガイドラインの完成
 - (7)学生ハンドブック規程の整備

4. 課題

- 1) 奨学金に関して借金だという自覚が不足している学生がいるため、その指導をどのようにしていくか検討したい。
- 2) 学生会（研成会）の活動について、学業とのバランスが取れるようにどのように支援していくか検討したい。

研究推進委員会

1. 構成員

委員長：篠原清夫

委員：處千恵美、新妻規恵、松本文美、池増信幸、落合文子、中村信一（7月末まで）

書記：篠原清夫

2. 職務

本学教職員の研究推進を図るため、昨年度までの紀要委員会が行っていた職務および、新たに年報の発刊業務を行う。

【紀要発刊に関して】

- 1) 紀要原稿の募集および採択に関すること。
- 2) 紀要の編集および体裁に関すること。
- 3) 紀要投稿規程の制定、改廃に関すること。
- 4) 紀要発刊および配布に関すること。

本年度は教員の研究成果を発表する場を多く設けるため、年2回の紀要を発刊する。

【年報発刊に関して】

- 1) 教員の研究業績の収集と確認および整理。
- 2) 委員会報告の収集と整理。
- 3) 年報の編集および体裁に関すること。
- 4) 年報発刊および配布に関すること。

3. 活動

- 1) 第1回研究推進委員会 2018年7月12日(木)
査読者の決定：委員が全員集まったの会議が困難だったためメール会議とし、三育学院大学紀要第11巻第1号への投稿研究論文の査読者について審議、決定した。
- 2) 第2回研究推進委員会 2018年8月24日(金)
追加投稿承認：紀要第11巻第1号への投稿論文数が少ないため、第2号に投稿予定であった論文を第1号に投稿変更の希望があったため追加投稿について審議、決定した。
- 3) 第3回研究推進委員会 2018年9月13日(木)
掲載可否の決定：紀要第11巻第1号投稿論文について、査読後修正された原稿の掲載（1論文）、査読なし論文の種別と掲載（3論文）について審議、決定した。
- 4) 第4回研究推進委員会 2018年9月26日(水)
査読者の決定：委員が全員集まったの会議が困難だったためメール会議とし、三育学院大学紀要第11巻第2号への投稿研究論文の査読者について審議、決定した。
- 5) 原稿の校正、『三育学院大学紀要』第11巻第1号の発刊、配布 2018年10月31日
- 6) 第5回研究推進委員会 2018年10月4日(木)
査読者変更：紀要第11巻第2号への投稿研究論文の査読者の変更について審議、決定した。
- 7) 第6回研究推進委員会 2018年11月27日(火)
掲載可否の決定：紀要第11巻第2号投稿論文について、査読後修正された原稿の掲載（5論文）、査読なし論文の種別と掲載（3論文）について審議、決定した。
- 8) 原稿の校正、『三育学院大学紀要』第11巻第2号の発刊、配布 2019年2月11日
全国大学図書館等への紀要の配布を図書館に依頼。
- 9) 『年報』発刊のために、研究推進支援室で収集している教員研究業績、秘書室で収集している委員会報告の提出依頼。

4. 課題

- 1) 本年度は紀要を年間2回発刊することにより投稿機会を増やしたが、第1号、第2号の合計掲載論文が12本で、昨年度の11本と比べると微増に終わった。
- 2) 本委員会会議は紀要発刊業務の特殊性からテレビ会議には向かないが、本年度はやむを得ずメール会議を多用せざるを得なかった。会議を成立させるための適切な方法について今後検討する。
- 3) 第11巻第1号は予定日に発刊とはならなかったが、第2号は予定通り発刊できた。しかし、年2回発刊は委員会において多忙になること、2回発刊してもさほど投稿論文数は増えないことの問題があるため、来年度は年1回発刊にすることを検討する。
- 4) 多くの投稿・掲載をするために査読者が投稿論文に対して前向きな査読をしてもらえるような査読に関するガイドライン作成を継続して検討する。
- 5) 旧紀要委員会を引き継ぐかたちで今年度から新たに生まれた委員会であるが、紀要発刊と年報発刊に関わる職務以外について明確化する必要がある。

研究倫理審査委員会

1. 構成員

委員長：篠原清夫

委員：浦橋久美子、今野玲子、石渡美由紀、大河原健介、高橋義文（外部委員）、藤田郁子（外部委員）

書記：篠原清夫

2. 職務

- 1) 人を対象とした研究の倫理的配慮に関する審査
- 2) 研究倫理審査申請が円滑に行われるための環境整備
- 3) 厚生労働省等公的機関への研究倫理審査状況の報告
- 4) 研究倫理審査規程の見直し
- 5) 倫理審査承認研究の成果関連資料の保存

3. 活動

- 1) 本学における研究倫理審査体制および研究倫理審査手順について理解してもらうため、「研究倫理審査手順書」を作成し、Group-Session にアップした。
- 2) 第 1 回研究倫理審査委員会 2018 年 4 月 12 日(木)
定例研究倫理審査委員会の日程（審査予定日）
4 月と 8 月以外、毎月定例の研究倫理審査委員会を開催し、関係各位に通知した。
5 月 24 日(木)1 限
6 月 21 日(木)4 限
7 月 19 日(木)1 限
9 月 12 日(水)1 限
10 月 17 日(水)1 限
11 月 28 日(水)1 限
12 月 12 日(水)1 限
1 月 23 日(水)1 限
2 月 13 日(水)1 限
3 月 6 日(水)1 限
- 3) 第 2 回研究倫理審査委員会 2018 年 6 月 28 日(木)
倫理審査申請（迅速審査）があったので審査を行った。
「看護学大学におけるスピリチュアルケア実習－成人看護学Ⅲ（終末期看護）演習（3 年次後期）における学生の「考察」記録の分析から－」
判定：条件付承認（承認番号：2018-01）
- 4) 第 3 回研究倫理審査委員会 2018 年 10 月 4 日(木)
倫理審査申請（迅速審査）があったので審査を行った。
「事例検討会における見取り図活用の効果」
判定：承認（承認番号：2018-02）
- 5) 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（AMED）倫理審査委員会報告事業の倫理審査委員会報告システムにおいて登録情報の更新作業を実施し、Web 上で公開した。
<https://www.rinri.amed.go.jp/>
- 6) 第 4 回研究倫理審査委員会 2019 年 1 月 29 日(火)
倫理審査申請（迅速審査）があったので審査を行った。
「在宅生活ニーズ把握を目的とした多職種連携のための見取り図活用方法の開発」
判定：承認（承認番号：2018-03）

7) 第 5 回研究倫理審査委員会 2019 年 2 月 21 日(木)

倫理審査申請（迅速審査）があったので審査を行った。

「在宅生活ニーズ把握ツールとしての見取り図活用の推進のための研修会の成果」

判定：承認（承認番号：2018-04）

2018 年度研究倫理審査結果

項目		審査数	備考
定例審査件数 計		0	侵襲性を伴う研究計画の申請なし
迅速審査件数 計		4	
審査結果	承認	3	質問紙調査 2・インタビュー調査 1
	条件付承認	1	学生レポート分析 1
	不承認	0	

4. 課題

- 1) 本年度は定例審査がなく、迅速審査が 4 件であった。侵襲性を伴う実験研究などがなかったためであるが、今後幅の広い研究がなされやすくするための審査体制について検討する。
- 2) 研究倫理審査を申請する研究者が少なく、本学における研究への取り組みの消極的傾向がうかがわれるため、研究倫理審査の受審に対する抵抗感を減らす体制構築について研究推進支援室とともに検討する。

保健師課程選択者選考委員会

1. 構成員

委員長：浦橋久美子

委員：鈴木純恵、後藤佳子、今野玲子、緑川喜久代、小田朋子、平澤久美子

書記：小田朋子、緑川喜久代

2. 職務

- 1) 保健師課程選抜者選考試験の計画と実施に関すること
- 2) 保健師課程選抜者選考試験の審査に関すること
- 3) 保健師課程選抜者選考要領および要項に関すること

3. 活動

- 1) 保健師課程選抜者選考に関する試験の周知
2年生を対象に説明会を教務課と連携し実施した。
- 2) 保健師課程選抜者選考に関する試験の実施
 - ① 集団面接テーマおよび小論文課題の作成
 - ② 試験の実施
 - ③ 試験の採点および選択者の合否案の作成
- 3) 審査結果に関する学生および保護者対応
委員長と1名の委員がともに学生および保護者と面談し、審査結果や今後の学生の取り組みについて対応した。
- 4) 保健師課程選抜者選考要領および要項の見直し
学生の現状およびカリキュラムとの関連などから見直し、教授会で審議した。
- 5) 保健師課程の選択要領の変更
学生の現状および学修の関連から選択できる学生の基準について検討し、教授会で審議した。

4. 課題

- 1) 選択試験の展開
2019年度は2日間で行われていた試験を1日で実施するため、スムーズな実施ができるよう教務課および学部教員との連携の強化が必要となる。
- 2) 保健師課程の選択要領
GPAの基準を設けたことによる学生への影響を明確にする。

保健師課程選択者選考委員会開催状況

No.	実施日	内容
1	2019年1月23日	1. 確認・報告事項 1) 日程確認 2) 応募状況について 2. 検討事項 1) 審査の進め方について 2) 集団面接テーマについて 3) 小論文について 4) 合否審査基準について
2	2019年2月12日	1. 審議事項 1) 受験者の合否判定(案)について 2. 検討事項 1) 選抜試験に関する事項について 2) 選抜要項等の改正について 3) 2019年度選抜試験に向けて
3	2019年3月18日 (メール会議)	審議事項 保健師課程の選択要領の変更について

FD委員会

1. 構成員

委員長：鈴木純恵

委員：市川光代、篠原清夫、緑川喜久代、清野星二、諸見里優子

書記：緑川喜久代、清野星二、諸見里優子

2. 職務

- 1) 教育活動の質的向上に関する事項
- 2) 研究推進体制の整備に関する事項
- 3) 研究推進に関する事項
- 4) 外部研究費の導入推進に関する事項
- 5) 各種研修会、研究会の実施に関する事項
- 6) その他FDに関する事項

教員の資質向上を図るための委員会であるが、特に2)～5)については研究推進委員会が担うべきところであるため、本委員会では特に教育に関する資質の向上についての役割を担うものとする。なお、研究能力の向上については、一部研究推進委員会と共催することがある。

3. 活動

1) FD委員会の開催

日時	議題
5月14日(火) 第1回	1. 委員会の運営方針 2. 各役割分担 3. 前期・後期年2回のFD研修会について 4. 研究推進委員会と協働した研究懇話会の検討
6月11日(月) 第2回	1. 第1回委員会の議事録承認 2. 第1回(前期研修会)と第2回(後期研修会)の日程調整8月31日と3月25日に決定 3. 研修会テーマと講師の検討⇒ループリック評価について(案) 4. 第1回研究懇話会のテーマと発表者の決定
7月9日(月) 第3回	1. 第2回委員会の議事録承認 2. 第1回FD研修会(8月31日)テーマ決定とプログラム案の提示 3. FD研修会役割分担 4. 第1回研究懇話会(6月27日)のアンケート結果報告
9月6日(木) 第4回	1. 第3回委員会の議事録承認 2. 第1回FD研修会の振り返りとアンケート結果の報告 3. 今後の研究懇話会の方向性について
10月10日(水) 第5回	1. 第4回委員会の議事録承認 2. 研究懇話会の日程と発表者の変更について 3. 第2回FD研修会のテーマと講師の検討
12月13日(木) 第6回	1. 第5回委員会の議事録承認 2. 次回1月2月の懇話会のテーマと内容の確認 3. 後期FD研修会のテーマと講師の検討
1月7日(月) 第7回	1. 第6回委員会の議事録承認 2. 1月2月の懇話会のテーマと発表者の確認 3. 2018年度後期第2回FD研修会のテーマ(案)と講師、および講演の概要 1) 講師料の検討 2) 研修会の役割分担 4. 2018年度、定期FD委員会はこの回で終了とし必要時招集とする

2) FD研修会の開催

日時	講師	テーマ	参加者
8月31日(火) 10:00～13:30	帝京大学高等教育 センター長教授 井上史子先生	ループリック評価と活用について「講義と評価表の作成」	25名
3月25日(月) 13:30～16:00	淑徳大学客員教授 陣田泰子先生	看護現場学 「学びの促進のための内省と概念化」	21名

3) 研究懇話会の開催

日 時	発表者	テーマ	参加者
6月27日(水)	篠原清夫	「統計コンテスト SPSS Datathon2017」優秀賞受賞内容の紹介	15名
	松本文美	看護学実習指導に関わる看護師の実習指導・行動についてのアンケート	
10月24日(水)	高谷秀司先生	2年次小グループ教育について	
12月12日(水)	處千恵美	修士論文発表「臨地実習における看護系大学生のSNSによる情報漏洩に至る心理的特徴」	15名
1月23日(水)	篠原清夫	研究倫理講習	17名
2月27日(水)	松本文美	成人実習Ⅱの現状と課題	15名
	白木沙知	老年実習の現状と課題	

4. 課題

- 1) FD研修会は2018年8月と2019年3月に実施した。研修内容自体には問題ないが、8月はオープンキャンパス、個々の学会参加で忙しいとの声があり、3月も公開講座やオープンキャンパス、国家試験の発表等で忙しい時期との声が挙がった。また、研修内容が濃く、時間内で消化できないなどの声もあるので、開催時期と実施時間の検討が必要である。
- 2) 研究懇話会についても1コマの時間ではディスカッションができない等の時間的問題が挙げられている。

国家試験対策委員会

1. 構成員

委員長：遠田きよみ

委員：浦橋久美子、近藤かおり、處千恵美、緑川喜久代、清野星二、松本文美、石渡美由紀

書記：委員会メンバーが交代で担当（委員長、浦橋、石渡を除く）

2. 職務

1) 学生国家試験対策の計画立案

(1) 4年生向けの取り組み

- ①保健師・看護師模擬試験：計画の立案および業者との調整、実施、分析
- ②保健師・看護師補習講義：学力不振学生（Cランク以下）の学内補講計画の立案および調整、実施
- ③看護師国家試験対策：チーム A10（Dランク以下選抜者）の計画および調整、実施
- ④保健師・看護師国家試験対策ガイダンスの計画と実施
- ⑤保健師・看護師国家試験対策：卒業生講話（具体的なアドバイス）

(2) 3年生向けの取り組み（一部希望しない学生を除く）

- ①看護師国家試験対策模擬試験（専門基礎）：計画の立案および業者との調整、実施、分析
- ②看護師国家試験対策模擬試験のふりかえり：模擬試験の再テストの促し、模擬試験問題を活用した実習とつなげる取り組み
- ③新校舎のインフォメーションスペースの調整

(3) 低学年への取り組み

- ①1年生へガイダンスの実施（2月末）
- ②解剖生理模擬試験：計画の立案および業者との調整、実施と振り返り

2) 教員および関係部署との調整

- (1)三 100 会議における国家試験対策の周知、報告および議題提供
- (2)アドバイザー教員への情報提供および情報交換と連携
- (3)教務課との連携：国家試験願書申し込み、オリンピックセンターの申し込み

3) 委員会の開催

4) 研修会への参加

新メンバーを中心に研修会の参加を行った。

5) その他

- (1)学生への情報提供
- (2)学生国家試験係との連携と協力
- (3)関係各部への本学の現状報告（3 病院会議等）

3. 活動

保健師・看護師国家試験の合格率 100%を目指し、主に以下の取り組みを実施した。

1) 国家試験対策ガイダンスの実施

- ・学内教員によるガイダンス：4年・3年・1年生（学修センターからの要望により）
- ・国家試験業者によるガイダンス：4年生

2) 看護師国家試験対策

看護学部 4年生

(1) 看護師国家試験対策

- ①模擬試験の計画と実施、分析とフィードバック
 - ・模擬試験 8 回の計画と実施
 - ・模擬試験の傾向の分析、フィードバック

②安ヶ平先生による解剖生理強化のための補講

- ・全体補講 1 回 / 学力不振学生補講 3 回を実施

③学内補講（教員による）の計画と実施（延べ 22 回）

④国試対策業者による出張講座（12 月）の計画と実施

- ・さわ研究所弱点強化補講（2 日間）の計画と実施

⑤1 月に 2 週間の社会保障に関する補講（浦橋先生）

⑥1 月に 4 週間の必修対策 100%の取り組み

⑦11 月～2 月まで「仕組まれた時間」として学修時間の提示と教室の開放、お菓子の提供等を行い、学生が朝から学校に来て学修する環境づくりを行った。

(2)保健師国家試験対策

①模擬試験の計画と実施、分析とフィードバック

- ・学内の手作り模試 1 回、業者模試 3 回の計 4 回の計画と実施
- ・模擬試験のふりかえりと解説

②学内補講の計画と実施（10 回 + 3 回は模擬試験のふりかえり）

(3)卒業生の講話

保健師・看護師国家試験に向けた具体的なアドバイスの機会として卒業生の講話を企画・実行した。

- ・7 月に看護師国家試験対策のアドバイス（大石天門さん）
- ・10 月に保健師国家試験対策のアドバイス（新井美和さん）

4. 課題

1) 学力不振学生の対策

次年度から、学力不振学生向け少人数制プログラムを担当していた安ヶ平先生の協力が難しいことがわかっている。そのため、学力不振学生向け講座を実施している業者のプログラムを学内で実施できるよう、学習環境、経済環境を整えていく必要がある。

2) 低学年への国家試験対策の具体的な検討

(1)国家試験ガイダンスの早期実施

1 年次からの動機付けを行う必要がある。新年度から各学年に相当の国家試験対策ガイダンスを計画(国家試験とは、本学の合格率、出題基準の活用法など)。

(2)低学年からの国家試験模擬試験の実施、計画

各学年に適切な模擬試験を実施し、国家試験対策と同時に、押さえるべき基礎学力の定着を図る必要性。

(3)アドバイザーとの連携強化

4 年次はグループアドバイザーの役割が大きい。特に心理的な影響が学業にも影響していくため、アドバイザーとの情報共有を踏まえ課題解決に向けた連携の強化が必要である。

(4)学修センターとの連携可能性の模索

低学年からの取り組みは、国家試験を意識させることが第一義的ではなく、学修方法の修得による主体的な学びであると考えため、学修センターとの情報共有と連携を模索する必要がある。

3) 模擬試験の活用法の徹底

模擬試験を合格に向けて、学修を定着させる方法として、模擬試験を繰り返すことを徹底する必要がある。正答率が 80%を超えるまで繰り返すこと、間違った問題を周辺情報まで合わせてノートにまとめることなどをガイダンスに組み込んでいく必要がある。

4) 保健師国家試験への早期の動機付け

保健師国家試験受験者の中には、国家試験対策を目的とした取り組みにとどまっている学生も見受けられた。早い段階で、国家試験問題が、実際の状況での知識や判断を必要としていることが分かると、合格率を取り戻すことができる可能性がある。

自己点検評価委員会

1. 構成員

委員長：後藤佳子

委員：鈴木純恵、山地正、浦橋久美子、篠原清夫、山口伊作

書記：後藤佳子

2. 職務

- 1) 本学が大学としての必要な水準を保っているかについて、自己評価する。
- 2) 自己評価した結果について学内外に報告し、改善が必要な内容について積極的に担当部署に伝達する。
- 3) 自己点検評価を行なった内容について記録を作成・保管する。(今後は研究推進委員会で編集・発行する『年報』に記録を掲載予定。)

3. 活動

- 1) 2014 年度に受審した「日本高等教育評価機構」による認証評価において求められている改善報告書を7月に提出した。
- 2) 2018 年度 11 月に設立された看護学の分野別評価を行なう「日本看護学教育評価機構」に関する情報の学内周知。
- 3) 「日本看護学教育評価機構」に大学として入会した。

4. 課題

- 1) 今後の定期的な大学評価は、年報を通して行っていく(研究推進委員会が担当)。
- 2) 日本看護学教育評価機構による評価を受けるための準備を進める。

中長期計画策定委員会

1. 構成員

委員長：山口伊作

委員：新妻規恵、山口道子、池増信幸、板橋正幸、上谷佳弘、棚橋浩史、野口盛子

書記：山口伊作

2. 職務

- 1) 中長期計画案を策定し、運営委員会に提出する。

3. 活動

- 1) 委員会記録

開催日時：2018年4月17日

参加委員：山口伊作、新妻規恵、山口道子、池増信幸、板橋正幸、野口盛子

討議内容：ボトムアップから計画を提言することを目的に委員会組織としたが、トップダウンからの提示がなければ難しい、との意見が多く委員会としての活動に至らなかった。

- 2) 上述の通り委員会の活動は実質的に行われなかったが、運営委員会において中長期計画の策定ならびに実施に至る議論が行われた。以下はその概要である。

- (1)東京2学年プロジェクト

このプロジェクトは、東京衛生病院の土地をお借りし、5号館に加え6号館を新築し2学年が東京で学修する計画である。目的は、臨地実習に加え合計2年間、系列病院である東京衛生病院の医師、看護師等の指導を受けることが容易になり、より実践的な学修が可能となることにある。また、学生募集にもプラスになると考えている。

このプロジェクトは、2015年7月に月報で全教職員に報告され、以後進展状況が随時共有されている。また「三育学院大学・東京衛生病院定期運営協議会」が設置され病院との協議が毎月定例で行われてきた。その結果、2018年9月に2学年が東京で学修を開始し、東京2学年プロジェクトを終了した。

- (2)大学院設置

運営委員会にて大学院設置の審議が行われ、2017年11月本学の設置母体であるセブンスデー・アドベンチスト教団年次理事会で系列病院などを含む教団の横断的プロジェクトとして大学院設置の準備が決議された。同年12月には、全教職員会議で大学院設置の必要が共有された。2019年3月には、設置認可申請書類が文部科学省に提出された。

4. 課題

- 1) 委員会が設置されたが結果的に運営委員会がその機能を担った。委員会の役割の一つであったボトムアップによる議論が十分行われず課題が残った。

ICT 委員会

1. 構成員

委員長：板橋正幸

委員：山地正、浦橋久美子、山本理、小田朋子、（山口伊作：必要時に要請）

書記：委員会メンバーが交代で担当

2. 職務

- 1) 学内のネットワーク環境、パソコン環境等の維持
- 2) 新入生に対するパソコン手配

3. 活動

- 1) 学内のネットワーク環境、パソコン環境等の維持のための学内の実務対応、業者との対応・年度ごとの契約更新等
- 2) 新入生に対するパソコン手配のための業者折衝、選定作業、配布作業

4. 課題

- 1) 学内教職員の所持しているパソコンの実態調査。現状は不具合のあるパソコンへの対症療法的な対応にとどまり、教職員全体のパソコンの実態（使用している OS や使用期間等）をまとめられていない。
- 2) 新入生へのパソコン購入案内時期、案内方法の再検討

労作教育委員会

1. 構成員

委員長：森祐二

委員：山本理（副委員長）、増田敦、相川由紀夫、阿部芳也、上谷佳弘、武田和也、棚橋浩史
（松本浩幸、増田郁子、山口伊作、野口盛子：以上必要時に要請）

書記：山本理

2. 職務

- 1) 三育学院大学、カレッジ学生に、三育の特色教育の一つである労作について、教育理念を啓発し実践的取組みを通して理解させる。
- 2) 労作教育の各種プログラムが円滑に実施できるように企画調整を行なう。
- 3) 労作教育に関する問題の解決を図り、教育内容の充実改善に努める。

3. 活動

- 1) 労作教育委員会の開催
合計 12 回の委員会を開催し、労作教育活動の円滑な実施に努めた。
- 2) アセンブリー主催（全 3 回）
全学アセンブリーにおいて以下のプログラムを実施した。
 - ① 労作教育理念の啓発（2018 年 4 月 5 日）
 - ② 感謝祭（2018 年 11 月 22 日）
 - ③ 表彰式（2019 年 2 月 7 日）
- 3) 労作オリエンテーション
1 年労作に関する開始オリエンテーションを行なった。
- 4) 勤労奨学金制度の運用
勤労奨学生の採用、選考、勤労部門配置、指導、人事考課等を行なった。

4. 課題

- 1) 2018 年度が一番大きな課題は、2 年生が後期から東京校舎に移動することに伴う、労作活動の全般的見直しを行なったことである。具体的には、後期から労作班のローテーションを大きく変更して取り組んだ。
- 2) 次年度以降への課題(1)
大多喜キャンパスに在学する学生が少なくなるので、これまで同様の労作活動を展開していくことは難しい。労作教育の理念を残しつつ、より効果的な活動に絞り込む必要がある。
- 3) 次年度以降への課題(2)
労作教育の指導者不足である。特に、看護学生に労作教育を体験的に学ばせる教員数が不足している。また、労作教育の最も重要な活動である、自然教育（畑、花壇、園芸、キャンパス）において専門的指導者が不足している。現状は、引退教職員のボランティアに頼っているが、後継者が不在である。

宗教教育委員会

1. 構成員

委員長：山地正

委員：新妻規恵（副委員長：大多喜）、小田朋子（副委員長：東京）、今野玲子、近藤かおり、白木沙知、近藤光顕、池田直子、大河原健介、野口盛子、諸見里優子
（増田敦、増田郁子、海部明紀、朱常希、ジョセフ・デュアート、羅明勲：以上必要時に要請）

書記：山地正

2. 職務

1) 学則第63条に基づく、専門委員会として、宗教教育に関する事項を審議立案する。

2) 次の事項について審議立案する。

- (1) 宗教教育の予算に関する事項
- (2) 宗教教育プログラム全般に関する事項
- (3) 学生の地域ボランティア活動に関する指導
- (4) CMCの企画する宗教プログラムに関する事項
- (5) 聖歌隊、ハンドベルコワイヤーの活動に関する事項
- (6) 教職員の宗教的啓発に関する事項
- (7) 教授会への提案に関する事項
- (8) その他宗教教育に関する事項

3. 活動

1) 以下の日程で定例の委員会を開催した。

2018年4月4日、5月10日、6月14日、7月12日、9月13日、10月11日、11月8日、12月6日、
2019年1月24日、2月14日、3月7日、計11回

2) 以下の日程で、メールによる臨時持ち回り委員会を行った。

2018年4月11日、4月16～18日、11月17～19日、2019年2月24～25日、計4回

3) 以下の日程で、東京校舎の小委員会を開催した。

2018年4月19日、5月24日、6月21日、7月25日、計4回

4. 課題

- 1) 「マラナ・タ18」に呼応したキャンパスでの救霊活動
- 2) 後期から始まる東京2学年体制の準備

図書委員会

1. 構成員

委員長：山本理

委員：山地正、緑川喜久代、小田朋子、相川由紀夫

書記：相川由紀夫

2. 職務

- 1) 図書・雑誌・視聴覚資料等について
- 2) 図書予算策定と執行状況について
- 3) 図書館運営について

3. 活動

- 1) 2018 年 6 月 4 日(月) 第 1 回委員会

4. 課題

東京に新校舎（6 号館）が完成し、図書室も移転し運用が開始された。

学修委員会

1. 構成員

委員長：山本理

委員：浦橋久美子、篠原清夫、鈴木純恵、新妻規恵、増田郁子

書記：山本理

2. 職務

- 1) 学生が学習目標を達成しうる仕組みづくり
- 2) 初年次教育の質的保証
- 3) 初年次教育のさらなる充実と改善

3. 活動

- 1) 2019 年 1 月 25 日(金) 第 1 回委員会

4. 課題

- 1) 専任スタッフの不足

地域共創委員会

1. 構成員

委員長：山地正

委員：浦橋久美子、市川光代、今野玲子、新妻規恵、緑川喜久代

書記：山地正、浦橋久美子

2. 職務

1) 地域への文化的貢献

(1)三育祭に関すること

(2)クリスマスコンサートに関すること

2) 地域英語教育支援

(1)町立小学校、中学校の英語教育の質向上に関すること

(2)町立保育園での英語教育に関すること

(3)観光協会主催の英会話講座に関すること

3) 健康支援

(1)健康な地域づくりに関すること

(2)地域住民の QOL 向上の支援に関すること

4) 公開講座

看護職の資質向上の支援に関すること

3. 活動

1) 三育祭の企画・運営（実施）をし、地域住民の健康づくりに寄与した。

(1)三育祭実行委員を置き、委員を中心に「大多喜の大学行ったことある？」をテーマに大学行事として取り組んだ。

(2)大学の認知度をあげるとともに地域住民の健康づくりに寄与した。

2) 「さんいくクリスマスワンダーランド」を企画・実施し、地域への文化貢献に寄与した。

(1)キリスト教を背景とする音楽の演奏を通して、西洋文化に触れる機会を提供した。

(2)町立保育園・小学校での英語教育支援活動の発表の場とした。

(3)クリスマスイルミネーションの装飾を準備し、親子、家族でキャンパスを訪問していただくことにより、地域住民との交流を深める取り組みとした。

3) 大多喜町観光協会の要請により英会話セミナーを実施し、国際交流活動に寄与した。

本学の英語科教員、及び ALT を派遣し、町民対象に英会話セミナーをシリーズで担当した。

4) 公開講座の企画・運営をし、地域住民の健康づくりに取り組んだ。

東京校舎の委員を中心に学部と協働し、東京衛生病院健康科長仲本桂子氏を講師に「メタボリックシンドローム予防のためのダイエットについて」講演を企画・実施した。

5) 御宿町と連携し、以下の協働活動に取り組んだ。

(1)御宿町 CCRC 版「生涯活躍のまち・おんじゅく」と連携し、御宿町実谷地区の健康づくりに取り組んだ。

(2)御宿町介護予防教室へ学生と教員がボランティアとして参加し、参加者の健康づくりに寄与した。

6) 東京衛生病院企画の健康祭に学生および教職員がボランティアとし参加し、周辺住民へ大学の周知や住民の健康づくりに寄与した。

7) 地域からの要請により、住民の健康づくり、看護職の資質向上へ寄与した。

(1)公的機関及び実習施設 5 機関から研究指導や研究発表の助言の依頼があり、5 人（述 6 人）が対応した。

(2)公的機関及び実習施設 8 機関から講師の依頼があり、6 人（述 8 人）の教員が対応した。

(3)学会の依頼で学術大会演者として 1 人の教員が対応した。

(4)実習施設の依頼で、教員 1 人と学生が運動会支援をした。

4. 課題

1) 地域貢献のありかた

東京2学年が開始され学生・教員が分散される中、質的および量的（人数）にどのように地域貢献できるか課題である。

2) 大学あるいは三育学院全体としての取り組み

三育祭やクリスマスイベントなど行事として実施する場合は、委員会等の設置により大学全体としての取り組みが可能であるが、日常的に行われる地域貢献を大学全体としてどのように取り組むか課題である。

保健委員会

1. 構成員

委員長：松本浩幸

委員：後藤佳子（副委員長）、小田朋子、大河原健介、佐藤春枝、山地純

書記：小田朋子

2. 職務

保健センターの下記の業務の企画、運営、検討を行う。

- 1) 学生の健康診断、健康相談、保健指導及び救命措置に関すること
- 2) 学生の予防接種の記録の管理
- 3) その他学生の保健に関すること
- 4) 教職員の健康診断、健康相談、保健指導及び救命措置に関すること
- 5) 教職員のストレスチェックに関すること

3. 活動

- 1) 2018 年度から健康管理室の組織替えを行い、保健センターを発足させ、保健センター長、常勤の看護師を配置し、保健委員会の中で、保健センター規程を制定し、保健センターの職務を明確化させ、その業務の企画、運営、検討を行った。
- 2) 大学で行われる予防接種業務の流れと、責任の所在を明確にし、チャート（予防接種確認ルート）にまとめた。
- 3) 大多喜キャンパスに於いては、大学の校医、近隣の病院のサポートを得ながら保健センターが中心となって、学生、教職員及びその家族の健康管理を行った（表1、図1、図2）。
- 4) 多くの学生が学寮に入寮している為、夜間は寮監、必要時保健センターで対応した。
大学の立地上、受診、通院にやや不便さが伴うため、寮監や保健センターが必要に応じ病院への送迎を行った。
- 5) 東京校舎に於いては実習病院が隣接しているため、病院の支援を得て学生の健康管理を行った（表1、図1、図2）。
- 6) 保健センターではインフルエンザやノロウイルスなどの感染予防（クロニタスの使用、ゲロポンの設置、ノロパンチ、手ピカジェルを必要な場所に設置、あいうべ体操の奨励としてカードを配るなど）感染症に関する啓発も積極的に行っている。その他各寮教務課の常備薬管理等も業務として行った。
- 7) 三育学院大学・カレッジ教職員のストレスチェックとその分析を行い、必要な支援を行政者に提案した。

表1. 保健センター（大多喜・東京）での学生利用状況（東京は通院送迎者対応分のみ）

	看護学科	神学科	教職員
1年生	366人	36人	
2年生	143人	31人	
3年生	126人	29人	
4年生	163人	14人	
合計	798人	110人	47人

図1. 学生の月毎利用件数

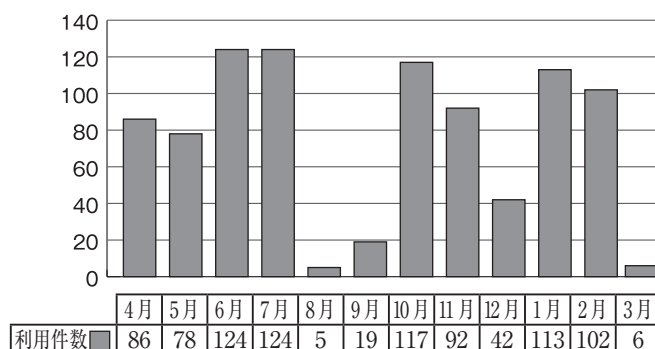
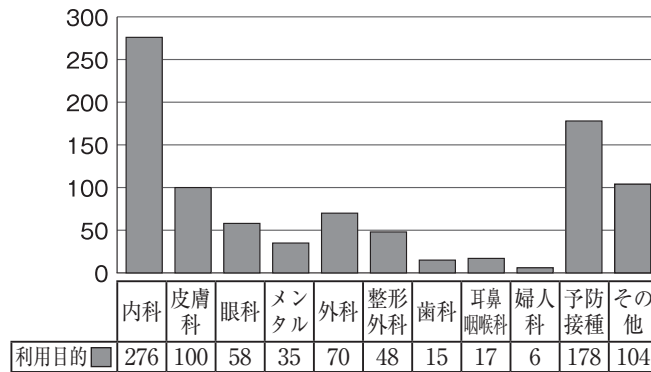


図 2. 学生の利用目的分類別



※予防接種は報告・確認・通院を含む

(1)定期健康診断、看護実習に関する健康管理支援

毎年4月に全学年及び、教職員を対象に、定期健康診断を実施している。健康診断結果に於いて、要精密検査、要治療、要観察の指摘を受けた学生及び教職員には、受診勧告・保健指導・健康相談などを個別に実施した。看護学科は、1年次にHBs抗原抗体検査、HCV抗体検査、QFT検査、四価抗体検査（麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘）を行っている。3年次、4年次HBs抗原抗体検査を行う。神学科新入生は、四価抗体検査を行った。

それぞれ、抗体検査結果に於いて抗体価の低いあるいは弱い学生には、ワクチン接種を実施して抗体を得るように指導した。特に臨地実習を行う学生に対しては、患者や、自己を感染から守ることが重要との見地から1年次の早い時期に授業の中で感染予防や、予防接種についての学びを深めた。

冬季に流行するインフルエンザの予防対策として全学生に予防接種を推奨した。

(2)学生相談

2018年度の学生相談の内訳は以下の表2の通りである。

大多喜は精神科医1名、東京は心理士1名がそれぞれ学生相談を行っている。大多喜では15回、東京では10回相談が行われ、利用者は大多喜が延べ20名、東京が延べ10名であった。

大多喜では対人と学業仕事がそれぞれ16回と最も多い。次に教員・学生に関する相談8回で、以下進路が7回、以下、寮生活、健康、性格に関する相談が続く。東京では学業仕事と寮生活がそれぞれ3回で最も多い相談であった。

表2. 学生相談内訳

	回数	人数	対人	異性	教員 学生	家族	学業 仕事	性格	健康	寮 生活	役割	進路	経済	課外 活動	過去	その他
大多喜	15	20	16	1	8		16	2	3	4	1	7			1	事例検討1
東京	10	10			1	1	3	1		3		1				

4. 課題

- 1) 東京校舎には専任の担当がおらず、東京の学生の健康支援をどのように行っていくか検討する必要がある。
- 2) 次年度大多喜に中学を迎えるにあたって、中学校と保健センターの関係を明確にしておく必要がある。
- 3) 学習障害等のある学生に対して、他の部門と連携して、「合理的配慮」を検討していく必要がある。

教育活動報告

カリキュラムの構成

カリキュラムは、Ⅰ. 教養教育科目、Ⅱ. 専門基礎教育科目、Ⅲ. 専門教育科目の3区分で構成され、3区分の下位に16科目群107科目がある（保健師課程は17科目群117科目）。

Ⅰ. 教養教育科目（6科目群40科目で構成）

《アドベンチストの信仰と生活》

人生の身近な問題を考え、語り合い、礼拝やアセンブリーでの特別講演などを通して、キリスト教を土台とした幅広い人間観を学ぶ科目群（12科目）

《人間の理解》

看護の対象となる人々をより広く理解するために、人間やその行動を科学的かつ全人的に捉える方法の基礎を学ぶ科目群（5科目）

《文化・社会の理解》

日本の歴史や文化・社会・経済を学ぶだけでなく、外国の歴史や文化・社会を学び、異文化に身を置くことによりグローバルに物事を考える姿勢を学ぶ科目群（8科目）

《情報科学》

受け取った情報をもとに物事を論理的に考え、分析し、相手に伝える技術を学ぶ科目群（4科目）

《自然の理解》

看護と関連がある自然界の諸現象を学問的に理解し、ならびに自然環境を大切にすることを学ぶ科目群（4科目）

《語学の修得》

英語や韓国語の読む力・書く力・話す力を修得するための科目群（7科目）

Ⅱ. 専門基礎教育科目（2科目群16科目で構成）

《人間と健康》

人間の体と心の仕組みを理解するとともに、健康の維持増進、健康障害の原因や疾病の病態・治療について理解することを目的とする科目群（12科目）

《健康と環境》

変動する現代社会における保健医療福祉問題を見つめ、保健医療福祉に関連する法律や制度を理解し、共に生きることを基点に、生活者としての人間に対する支援のあり方を学ぶ科目群（4科目）

Ⅲ. 専門教育科目（9科目群61科目で構成）

【看護師課程】

8つの専門領域で構成され、すべての看護領域に共通した基盤となるのは《基礎看護学》11科目である。そして、看護の対象となる人間の成長発達段階や健康レベル、生活の場の特性に応じて、《地域看護学》6科目、《成人看護学》6科目、《老年看護学》4科目、《小児看護学》4科目、《母性看護学》4科目、《精神看護学》4科目がある。さらに、専門領域での学びを深め、また、卒業後に看護を発展させていくことができるような科目群である《看護の発展科目》12科目より構成されている。

これらの科目の中には多様な看護実践の場や基礎的な看護技術を体験する基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、地域看護学実習から始まり、成長発達段階や健康レベルに応じた各領域別看護実習、さらに4年次前期には各領域での看護の学びを統合し、より高い看護実践能力を修得する総合看護実習が行われる。この他に、本学の特徴でもあるアジアの国々で行う国際看護実習（選択科目）が3年次8月にある。

【保健師課程】

3年次から保健師課程を選択した学生(定員12名)は看護師課程の科目に《公衆衛生看護学》10科目が加わる。

IV. 保健師課程カリキュラム(選択制)

保健師課程は選択制で、選択者は3年次から保健師課程(定員12名)に進むことができる。希望する学生は、2年次後期に申請及び審査がある。

2017年度以降入学者 看護師課程カリキュラム

区分	授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教育科目	アドベンチストの信仰と生活										
	キリスト教概論	4		◎							
	ミニストリー オブ ヒーリング		2				○				
	アセンブリーⅠ	1		◎							
	アセンブリーⅡ	1				◎					
	アセンブリーⅢ	1						◎			
	アセンブリーⅣ	1									◎
	キリスト教倫理		2			○					
	キリスト教音楽		1		○						
	S D A教会史		2								○
	パーソナル ミニストリー		2								○
	クリスチャン サービス		2								○
	現代とキリスト教		2						○		
	人間の理解			2	○						
	心理学			2	○						
	人間関係論	2			◎						
	教育学			2	○						
	スポーツ科学			2	○						
	文化・社会の理解			2	○						
	社会学			2	○						
	文化人類学			2				○			
	歴史			2		○					
	経済学			2	○						
	異文化演習			1			○				
	美学			1	○						
	日本国憲法			2				○			
	ボランティア活動論			1	○						
	情報科学			2		○					
	情報科学			2			○				
	情報科学	2				◎					
	情報科学	1			◎						
	自然の理解			2		○					
	物理学			2		○					
生物学			2		○						
化学			2		○						
生活環境論			1		○						
語学の修得			1			◎					
英語Ⅰ(読む)			1				◎				
英語Ⅱ(書く)			1				◎				
英語Ⅲ(論文講読)			1							○	
英会話Ⅰ(日常英会話)			2		◎						
英会話Ⅱ(看護英会話)			2			◎					
英会話Ⅲ(海外研修)			1				○				
韓国語			1			○					

区分	授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎教育科目	人間と健康	発達心理学	2			○						
		人体の形態と機能Ⅰ	2		○							
		人体の形態と機能Ⅱ	2			○						
		生化学	2		○							
		栄養学	1			○						
		疫学	2							○		
		保健統計演習	2					○				
		公衆衛生学	2			○						
		疾病・治療学Ⅰ	1			○						
		疾病・治療学Ⅱ	2					○				
		疾病治療学特論	1							○		
	薬理学	2					○					
	健康と環境	微生物学	2			○						
		保健医療福祉論	2					○				
保健医療福祉行政論		3							○			
保健医療社会学		1							○			
専門教育科目	基礎看護学	看護学概論	2		○							
		看護倫理	1			○						
		看護技術概論	1		○							
		看護技術各論Ⅰ（生活援助技術）	2			○						
		看護技術各論Ⅱ（診療補助技術）	2					○				
		看護技術各論Ⅲ（ハルスアセスメント）	1					○				
		看護技術各論Ⅳ（看護過程）	1					○				
		看護研究の基礎	2						○			
		健康教育論	1						○			
		基礎看護学実習Ⅰ	1		○							
	基礎看護学実習Ⅱ	2						○				
	地域看護学	地域看護学概論	2		○							
		地域看護方法論	1					○				
		家族看護学	1					○				
		在宅看護論	2						○			
		地域看護学実習	1		○							
		在宅看護論実習	2								○	
	成人看護学	成人看護学概論	1			○						
		成人看護方法論Ⅰ（急性期看護）	2						○			
		成人看護方法論Ⅱ（慢性期・機能回復期看護）	2					○				
		成人看護方法論Ⅲ（終末期看護）	1						○			
		成人看護学実習Ⅰ（急性期看護）	3							○		
		成人看護学実習Ⅱ（慢性期・機能回復期看護）	3							○		
老年看護学		老年看護学概論	1					○				
		老年看護方法論Ⅰ（高齢者の生活と看護）	1						○			
	老年看護方法論Ⅱ（高齢者の疾病と看護）	2						○				
	老年看護学実習	3							○			

区分	授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専 門 教 育 科 目	小児看護学	小児看護学概論	1				○					
		小児看護方法論Ⅰ（子供の成長・発達と看護）	1					○				
		小児看護方法論Ⅱ（健康障害を持つ子供の看護）	2						○			
		小児看護学実習	2							○		
	母性看護学	母性看護学概論	1				○					
		母性看護方法論Ⅰ（女性のライフサイクルと周産期看護）	2					○				
		母性看護方法論Ⅱ（周産期の健康障害の看護）	1						○			
		母性看護学実習	2							○		
	精神看護学	精神看護学概論	1				○					
		精神看護方法論Ⅰ（精神保健）	1					○				
		精神看護方法論Ⅱ（精神障害を持つ人の看護）	2						○			
		精神看護学実習	2							○		
	看護の発展科目	国際看護論		2					○			
		国際保健医療問題		1					○			
		国際看護実習		2					○			
		医療安全管理学	1					○				
		看護管理学		1							○	
		スピリチュアルケア	2						○			
		看護における補完療法		1								○
		看護診断・成果・介入のリンケージ		1							○	
災害看護学			1								○	
看護教育学			1								○	
卒業研究		4									○	
総合看護実習	2								○			
合 計		119	58									
卒 業 要 件		131 単位以上										

2017 年度以降入学者 保健師課程カリキュラム

区分	授業科目	単位数		1 年		2 年		3 年		4 年	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教 養 教 育 科 目	アドベンチストの信仰と生活										
	キリスト教概論	4		◎							
	ミニストリー オブ ヒーリング		2				○				
	アセンブリーⅠ	1		◎							
	アセンブリーⅡ	1				◎					
	アセンブリーⅢ	1						◎			
	アセンブリーⅣ	1									◎
	キリスト教倫理		2				○				
	キリスト教音楽		1		○						
	S D A 教会史		2								○
	パーソナル ミニストリー		2								○
	クリスチャン サービス		2								○
	現代とキリスト教		2						○		
	人間の理解			2	○						
	心理学		2		○						
	人間関係論	2		◎							
	教育学		2		○						
	スポーツ科学		2		○						
	文化・社会の理解			2	○						
	社会学		2		○						
	文化人類学		2					○			
	歴史		2			○					
	経済学		2		○						
	異文化演習		1				○				
	美学		1		○						
	日本国憲法		2					○			
	ボランティア活動論		1		○						
	情報科学			2		○					
	情報科学			2			○				
	情報科学	2				◎					
	情報科学	1		◎							
	自然の理解			2		○					
物理学		2		○							
生物学		2		○							
化学		2		○							
生活環境論		1		○							
語学の修得		1			◎						
英語Ⅰ（読む）		1				◎					
英語Ⅱ（書く）		1					◎				
英語Ⅲ（論文講読）		1								○	
英会話Ⅰ（日常英会話）		2		◎							
英会話Ⅱ（看護英会話）		2			◎						
英会話Ⅲ（海外研修）			1			○					
韓国語			1		○						

区分	授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎教育科目	人間と健康	発達心理学	2		○							
		人体の形態と機能Ⅰ	2		○							
		人体の形態と機能Ⅱ	2			○						
		生化学	2		○							
		栄養学	1			○						
		疫学	2						○			
		保健統計演習	2				○					
		公衆衛生学	2			○						
		疾病・治療学Ⅰ	1			○						
		疾病・治療学Ⅱ	2				○					
		疾病治療学特論	1						○			
	薬理学	2					○					
	健康と環境	微生物学	2			○						
		保健医療福祉論	2					○				
保健医療福祉行政論		3						○				
保健医療社会学		1						○				
専門教育科目	基礎看護学	看護学概論	2		○							
		看護倫理	1			○						
		看護技術概論	1		○							
		看護技術各論Ⅰ（生活援助技術）	2			○						
		看護技術各論Ⅱ（診療補助技術）	2					○				
		看護技術各論Ⅲ（ハルスアセスメント）	1				○					
		看護技術各論Ⅳ（看護過程）	1				○					
		看護研究の基礎	2					○				
		健康教育論	1					○				
		基礎看護学実習Ⅰ	1		○							
	基礎看護学実習Ⅱ	2					○					
	地域看護学	地域看護学概論	2			○						
		地域看護方法論	1				○					
		家族看護学	1				○					
		在宅看護論	2					○				
		地域看護学実習	1		○							
		在宅看護論実習	2							○		
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学原論	2						○			
		公衆衛生看護活動展開論	2						○			
		対象別支援技術論	2						○			
		地域ケアシステム論	2								○	
		公衆衛生看護管理論	2								○	
		産業保健	1						○			
		学校保健	1						○			
		公衆衛生看護学実習Ⅰ（市町村）	3							○		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ（保健所）	1								○	
公衆衛生看護学実習Ⅲ（産業・学校保健）		1							○			
成人看護学	成人看護学概論	1			○							
	成人看護方法論Ⅰ（急性期看護）	2					○					
	成人看護方法論Ⅱ（慢性期・機能回復期看護）	2				○						
	成人看護方法論Ⅲ（終末期看護）	1						○				
	成人看護学実習Ⅰ（急性期看護）	3							○			
成人看護学実習Ⅱ（慢性期・機能回復期看護）	3							○				

区分	授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門 教育 科目	老年看護学	1				○						
	老年看護方法論Ⅰ（高齢者の生活と看護）	1					○					
	老年看護方法論Ⅱ（高齢者の疾病と看護）	2						○				
	老年看護学実習	3							○			
	小児看護学	1				○						
	小児看護方法論Ⅰ（子供の成長・発達と看護）	1					○					
	小児看護方法論Ⅱ（健康障害を持つ子供の看護）	2						○				
	小児看護学実習	2							○			
	母性看護学	1				○						
	母性看護方法論Ⅰ（女性のライフサイクルと周産期看護）	2					○					
	母性看護方法論Ⅱ（周産期の健康障害の看護）	1						○				
	母性看護学実習	2								○		
	精神看護学	1				○						
	精神看護方法論Ⅰ（精神保健）	1					○					
	精神看護方法論Ⅱ（精神障害を持つ人の看護）	2						○				
	精神看護学実習	2								○		
	看護の発展科目	国際看護論		2					○			
		国際保健医療問題		1					○			
		国際看護実習		2					○			
		医療安全管理学	1					○				
	看護管理学		1							○		
	スピリチュアルケア	2						○				
	看護における補完療法		1								○	
	看護診断・成果・介入のリンケージ		1							○		
	災害看護学		1								○	
	看護教育学		1								○	
	卒業研究	4									○	
	総合看護実習	2									○	
合計		136	58									
保健師国家試験受験資格必要単位数		143 単位以上										

2016 年度以前入学者 看護師課程カリキュラム

区分	授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教 養 教 育 科 目	アドベンチストの信仰と生活										
	キリスト教概論	4			◎						
	ミニストリー オブ ヒーリング		2		○						
	アセンブリーⅠ	1			◎						
	アセンブリーⅡ	1					◎				
	アセンブリーⅢ	1							◎		
	アセンブリーⅣ	1									◎
	キリスト教倫理		2					○			
	キリスト教音楽		1		○						
	S D A教会史		2								○
	パーソナル ミニストリー		2					○			
	クリスチャン サービス		2						○		
	現代とキリスト教		2					○			
	人間の理解			2	○						
	心理学			2		○					
	人間関係論	2			◎						
	教育学			2	○						
	スポーツ科学			2				○			
	文化・社会の理解			2	○						
	社会学			2	○						
	文化人類学			2	○						
	歴史			2		○					
	経済学			2	○						
	異文化演習			1				○			
	美学			1	○						
	日本国憲法			2					○		
	ボランティア活動論			1	○						
	情報科学			2		○					
	情報科学			2				○			
	論理的思考	2			◎						
	基礎学習セミナー	1			◎						
	自然の理解			2	○						
	物理学			2	○						
	生物学			2	○						
	化学			2		○					
	生活環境論			1						○	
語学の修得			1		◎						
英語Ⅰ（読む）			1				◎				
英語Ⅱ（書く）			1					◎			
英語Ⅲ（論文講読）			1							○	
英会話Ⅰ（日常英会話）	2				◎						
英会話Ⅱ（看護英会話）	2							◎			
英会話Ⅲ（海外研修）			1						○		
韓国語			1	○							

区分	授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年			
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門基礎教育科目	人間と健康	発達心理学	2			○							
		人体の形態と機能Ⅰ	2		○								
		人体の形態と機能Ⅱ	2			○							
		生化学	2		○								
		栄養学	1			○							
		疫学	2						○				
		保健統計演習	2				○						
		公衆衛生学	2			○							
		疾病・治療学Ⅰ	1			○							
		疾病・治療学Ⅱ	2				○						
		疾病治療学特論	1							○			
		薬理学	2				○						
		健康と環境	微生物学	2			○						
			保健医療福祉論	2					○				
保健医療福祉行政論	3							○					
保健医療社会学	1							○					
専門基礎看護学	基礎看護学	看護学概論	2		○								
		看護倫理	1			○							
		看護技術概論	1		○								
		看護技術各論Ⅰ（生活援助技術）	2			○							
		看護技術各論Ⅱ（診療補助技術）	2					○					
		看護技術各論Ⅲ（ヘルスアセスメント）	1				○						
		看護技術各論Ⅳ（看護過程）	1				○						
		看護研究の基礎	2					○					
		健康教育論	1				○						
		基礎看護学実習Ⅰ	1		○								
		基礎看護学実習Ⅱ	2					○					
		地域看護学	地域看護学概論	2			○						
			地域看護方法論	1					○				
			家族看護学	1				○					
在宅看護論	2						○						
地域看護学実習	1			○									
在宅看護論実習	2								○				
成人看護学	成人看護学概論	1			○								
	成人看護方法論Ⅰ（急性期看護）	2					○						
	成人看護方法論Ⅱ（慢性期・機能回復期看護）	2				○							
	成人看護方法論Ⅲ（終末期看護）	1						○					
	成人看護学実習Ⅰ（急性期看護）	3							○				
	成人看護学実習Ⅱ（慢性期・機能回復期看護）	3							○				
老年看護学	老年看護学概論	1				○							
	老年看護方法論Ⅰ（高齢者の生活と看護）	1					○						
	老年看護方法論Ⅱ（高齢者の疾病と看護）	2						○					
	老年看護学実習	3							○				

区分	授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専 門 教 育 科 目	小児看護学	小児看護学概論	1				◎				
	小児看護学	小児看護方法論Ⅰ（子供の成長・発達と看護）	1					◎			
	小児看護学	小児看護方法論Ⅱ（健康障害を持つ子供の看護）	2						◎		
	小児看護学	小児看護学実習	2							◎	
	母性看護学	母性看護学概論	1			◎					
	母性看護学	母性看護方法論Ⅰ（女性のライフサイクルと周産期看護）	2				◎				
	母性看護学	母性看護方法論Ⅱ（周産期の健康障害の看護）	1					◎			
	母性看護学	母性看護学実習	2							◎	
	精神看護学	精神看護学概論	1				◎				
	精神看護学	精神看護方法論Ⅰ（精神保健）	1					◎			
	精神看護学	精神看護方法論Ⅱ（精神障害を持つ人の看護）	2						◎		
	精神看護学	精神看護学実習	2							◎	
	看護の発展科目	国際看護論		2					○		
	看護の発展科目	国際保健医療問題		1					○		
	看護の発展科目	国際看護実習		2					○		
	看護の発展科目	医療安全管理学	1					◎			
	看護の発展科目	看護管理学		1							○
	看護の発展科目	スピリチュアルケア	2						◎		
	看護の発展科目	看護における補完療法		1							○
	看護の発展科目	看護診断・成果・介入のリンケージ		1							○
看護の発展科目	災害看護学		1							○	
看護の発展科目	看護教育学		1							○	
看護の発展科目	卒業研究	4								◎	
看護の発展科目	総合看護実習	2								◎	
合 計		119	58								
卒 業 要 件		131 単位以上									

2016 年度以前入学者 保健師課程カリキュラム

区分	授業科目	単位数		1 年		2 年		3 年		4 年	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教 養 教 育 科 目	アドベンチストの信仰と生活										
	キリスト教概論	4		◎							
	ミニストリー オブ ヒーリング		2		○						
	アセンブリーⅠ	1		◎							
	アセンブリーⅡ	1				◎					
	アセンブリーⅢ	1						◎			
	アセンブリーⅣ	1									◎
	キリスト教倫理		2				○				
	キリスト教音楽		1		○						
	S D A 教会史		2								○
	パーソナル ミニストリー		2				○				
	クリスチャン サービス		2					○			
	現代とキリスト教		2				○				
	人間の理解			2	○						
	心理学		2			○					
	人間関係論	2		◎							
	教育学		2		○						
	スポーツ科学		2				○				
	文化・社会の理解			2	○						
	社会学		2		○						
	文化人類学		2		○						
	歴史		2			○					
	経済学		2		○						
	異文化演習		1				○				
	美学		1		○						
	日本国憲法		2					○			
	ボランティア活動論		1		○						
	情報科学			2		○					
	情報科学			2			○				
	情報科学	2		◎							
	情報科学	1		◎							
	自然の理解			2	○						
	物理学		2		○						
	生物学		2		○						
	化学		2			○					
	生活環境論		1						○		
	語学の修得		1		◎						
	英語Ⅰ（読む）		1			◎					
	英語Ⅱ（書く）		1				◎				
	英語Ⅲ（論文講読）		1								○
	英会話Ⅰ（日常英会話）	2		◎							
	英会話Ⅱ（看護英会話）	2					◎				
英会話Ⅲ（海外研修）		1				○					
韓国語		1		○							

区分	授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎教育科目	人間と健康	発達心理学	2			◎						
		人体の形態と機能Ⅰ	2		◎							
		人体の形態と機能Ⅱ	2			◎						
		生化学	2		◎							
		栄養学	1			◎						
		疫学	2						◎			
		保健統計演習	2					◎				
		公衆衛生学	2			◎						
		疾病・治療学Ⅰ	1			◎						
		疾病・治療学Ⅱ	2					◎				
		疾病治療学特論	1							◎		
	薬理学	2					◎					
	健康と環境	微生物学	2			◎						
		保健医療福祉論	2					◎				
保健医療福祉行政論		3						◎				
保健医療社会学		1						◎				
専門教育科目	基礎看護学	看護学概論	2		◎							
		看護倫理	1			◎						
		看護技術概論	1		◎							
		看護技術各論Ⅰ（生活援助技術）	2			◎						
		看護技術各論Ⅱ（診療補助技術）	2					◎				
		看護技術各論Ⅲ（ハルスアセスメント）	1					◎				
		看護技術各論Ⅳ（看護過程）	1					◎				
		看護研究の基礎	2						◎			
		健康教育論	1					◎				
		基礎看護学実習Ⅰ	1		◎							
	基礎看護学実習Ⅱ	2					◎					
	地域看護学	地域看護学概論	2			◎						
		地域看護方法論	1					◎				
		家族看護学	1					◎				
		在宅看護論	2					◎				
		地域看護学実習	1		◎							
		在宅看護論実習	2							◎		
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学原論	2						◎			
		公衆衛生看護活動展開論	2						◎			
		対象別支援技術論	2						◎			
		地域ケアシステム論	2								◎	
		公衆衛生看護管理論	2						◎			
		産業保健	1						◎			
		学校保健	1						◎			
		公衆衛生看護学実習Ⅰ（市町村）	3							◎		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ（保健所）	1								◎	
	公衆衛生看護学実習Ⅲ（産業・学校保健）	1							◎			
成人看護学	成人看護学概論	1			◎							
	成人看護方法論Ⅰ（急性期看護）	2						◎				
	成人看護方法論Ⅱ（慢性期・機能回復期看護）	2					◎					
	成人看護方法論Ⅲ（終末期看護）	1						◎				
	成人看護学実習Ⅰ（急性期看護）	3							◎			
	成人看護学実習Ⅱ（慢性期・機能回復期看護）	3							◎			

区分	授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門 教育 科目	老年看護学	1				○						
	老年看護方法論Ⅰ（高齢者の生活と看護）	1					○					
	老年看護方法論Ⅱ（高齢者の疾病と看護）	2						○				
	老年看護学実習	3							○			
	小児看護学	1				○						
	小児看護方法論Ⅰ（子供の成長・発達と看護）	1					○					
	小児看護方法論Ⅱ（健康障害を持つ子供の看護）	2						○				
	小児看護学実習	2							○			
	母性看護学	1			○							
	母性看護方法論Ⅰ（女性のライフサイクルと周産期看護）	2				○						
	母性看護方法論Ⅱ（周産期の健康障害の看護）	1					○					
	母性看護学実習	2							○			
	精神看護学	1				○						
	精神看護方法論Ⅰ（精神保健）	1					○					
	精神看護方法論Ⅱ（精神障害を持つ人の看護）	2						○				
	精神看護学実習	2							○			
	看護の発展科目	国際看護論		2					○			
		国際保健医療問題		1					○			
		国際看護実習		2					○			
		医療安全管理学	1					○				
	看護管理学		1							○		
	スピリチュアルケア	2						○				
	看護における補完療法		1								○	
	看護診断・成果・介入のリンケージ		1							○		
	災害看護学		1							○		
	看護教育学		1								○	
	卒業研究	4									○	
	総合看護実習	2									○	
合 計		136	58									
保健師国家試験受験資格必要単位数		143 単位以上										

開講科目一覧 (1年次)

分野	区分	履修年次	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目			教 員 名
						単位数			
						前期	後期	通年	
教 養 教 育 科 目	アドベンチストの 信仰と生活	1	キリスト教概論 A	4	必		}	4	ジョセフ デュアート
		1	キリスト教概論 B	4	必				
		1	アセンブリー I	1	必			1	東出 克己
		1	キリスト教音楽	1	選			1	譜久 島 肇
	人間の理解	1	心 理 学	2	選	2			森山 哲美
		1	人間関係論	2	必	2			高井良しずか
		1	教 育 学	2	選	2			森 祐 二
		1	スポーツ科学	2	選			2	増田 敦
	文化・社会の理解	1	社 会 学	2	選	2			篠原 清夫
		1	歴 史	2	選		2		山地 正
		1	美 学	1	選	1			中島 健三
		1	ボランティア活動論	1	選	1			橋本 笙子
	情報科学	1	情 報 科 学	2	選			2	篠原 清夫
		1	統 計 学	2	選		2		篠原 清夫
		1	論理的思考	2	必		2		増田 郁子
		1	基礎学習セミナー	1	必	1			新妻 規恵
	自然の理解	1	物 理 学	2	選		2		尾上 富佐子
		1	生 物 学	2	選	2			山本 理
		1	化 学	2	選	2			尾上 富佐子
		1	生活環境論	1	選	1			竹上 嘉征
語学の修得	1	英語 I (読む)	1	必		1		新妻 規恵	
	1	英会話 I (日常英会話)	2	必	2			サムエル コランテン	
	1	英会話 II (看護英会話)	2	必		2		サムエル コランテン	
	1	韓 国 語	1	選		1		羅 明 勲	
専 門 基 礎 教 育 科 目	人間と健康	1	発達心理学	2	必		2		及川 恵
		1	人体の形態と機能 I	2	必	2			山本 理
		1	人体の形態と機能 II	2	必		2		山本 理
		1	生 化 学	2	必	2			山本 理
		1	栄 養 学	1	必		1		仲本 桂子
		1	公衆衛生学	2	必		2		渡邊 いよ子
		1	疾病・治療学 I	1	必		1		塚本 利朗
	健康と環境	1	微 生 物 学	2	必		2		山本 理
専 門 教 育 科 目	基礎看護学	1	看護学概論	2	必	2			後藤 佳子 山郷 久美子 安ヶ平 伸枝
		1	看護倫理	1	必		1		鈴木 啓子 永田 英子 後藤 佳子
		1	看護技術概論	1	必	1			後山 佳子 山口 道三 竹上 三恵
		1	看護技術各論 I	2	必		2		遠田 三恵 竹上 三恵 安ヶ平 伸枝
		1	基礎看護学実習 I	1	必	1			後藤 佳子
		1	地域看護学概論	2	必			2	浦橋 久美子 緑川 久美子
	地域看護学	1	地域看護学実習	1	必	1			浦橋 久美子 緑川 久美子
		1	成人看護学概論	1	必		1		今野 玲子 近藤 かおり

開講科目一覧（2年次）

分野	区分	履修年次	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目			教 員 名
						単位数			
						前期	後期	通年	
教養教育科目	アドベンチストの信仰と生活	2	アセンプリーⅡ	1	必			1	東出 克己
		2	ミニストリーオブヒーリング	2	選		2		宮崎 恭一
	文化・社会の理解	2	異文化演習	1	選	1			バーバラ R ジェームズ
		2	日本国憲法	2	選		2		望月 穂貴
	語学の修得	2	英語Ⅱ（書く）	1	必	1			新妻 規恵
		2	英会話Ⅲ	1	選	1			ローリー スタンカビッチ
専門基礎教育科目	人間と健康	2	保健統計演習	2	必	2			山本 清夫
		2	疾病・治療学Ⅱ	2	必	2			塚本 利朗
		2	薬理学	2	必	2			山中 正雄
	健康と環境	2	保健医療福祉論	2	必			2	合澤 亮
専門教育科目	基礎看護学	2	看護技術各論Ⅱ	2	必			2	伊藤 わらび
			看護技術各論Ⅲ	1	必	1			山本 清夫
			看護技術各論Ⅳ	1	必	1			山口 道子
			看護研究の基礎	2	必		2		山遠田 道子
			健康教育論	1	必		1		安ヶ平 伸枝
			基礎看護学実習Ⅱ	2	必		2		近藤 伸枝
	地域看護学	2	地域看護方法論	1	必	1			緑川 喜久代
			家族看護学	1	必	1			浦橋 久美子
			在宅看護論	2	必		2		佐藤 壽子
	成人看護学	2	成人看護方法論Ⅰ	2	必		2		佐藤 壽子
			成人看護方法論Ⅱ	2	必	2			小夏 朋昌
	老年看護学	2	老年看護学概論	1	必	1			近藤 玲子
			老年看護方法論Ⅰ	1	必		1		今野 玲子
	小児看護学	2	小児看護学概論	1	必		1		近藤 玲子
			小児看護方法論Ⅰ	1	必		1		藤本 僚子
	母性看護学	2	母性看護学概論	1	必	1			市川 光代
			母性看護方法論Ⅰ	2	必		2		市川 光代
	精神看護学	2	精神看護学概論	1	必	1			星 直子
			精神看護方法論Ⅰ	1	必		1		星 直子
	看護の発展科目	2	医療安全管理学	1	必		1		篠原 良子
				1	必		1		篠原 良子

開講科目一覧（3年次）

分野	区分	履修年次	科 目 名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目			教 員 名	
						単位数				
						前期	後期	通年		
教育課程	アドベンチストの信仰と生活	3	アセンプリーⅢ	1	必			1	東出 克己 近藤 光顕	
			クリスチャンサービス	2	選	2				
専門基礎教育科目	人間と健康	3	疫 学	2	必	2			渡邊 いよ子 仲本 桂子 本郷 和彦 西野 俊宏 原平 澄子 廣宮 尚篤 倉 嗣善 澤 聡	
			疾病治療学特論	1	必		1			
	健康と環境	3	保健医療福祉行政論	3	必	3			渡邊 いよ子 篠原 清夫	
			保健医療社会学	1	必	1				
専門教育科目	地域看護学	3	在宅看護論実習	2	必		2		佐藤 壽子 緑川 喜久代 小田 朋子 足立 光生	
	成人看護学	3	成人看護方法論Ⅲ	1	必	1			處 千恵美 鈴木 純恵 松本 文美	
		3	成人看護学実習Ⅰ	3	必		3			
		3	成人看護学実習Ⅱ	3	必		3			
	老年看護学	3	老年看護方法論Ⅱ	2	必	2			市川 光代 市川 光代 白木 光沙	
			老年看護学実習	3	必		3			
	小児看護学	3	小児看護方法論Ⅱ	2	必	2			海老澤 のり子 本郷 久美子 清野 星二	
			小児看護学実習	2	必		2			
	母性看護学	3	母性看護学実習	2	必		2		山田 よしみ	
	精神看護学	3	精神看護方法論Ⅱ	2	必	2			松本 浩幸 松本 浩幸 須藤 幸つ	
			精神看護学実習	2	必		2			
	看護の発展科目		3	国際看護論	2	選	2			伊藤 尚子 青野 美香 橋本 笙子 本郷 久美子 山口 道子
				国際保健医療問題	1	選	1			
				国際看護実習	2	選	2			
スピリチュアルケア				2	必	2				

＜保健師課程カリキュラム選択者＞

分野	区分	履修年次	科 目 名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目			教 員 名
						単位数			
						前期	後期	通年	
専門教育科目	公衆衛生看護学	3	公衆衛生看護学原論	2	必	2			浦橋 久美子 緑川 喜久代 浦橋 久美子 佐藤 壽子 浦橋 久美子 松本 浩幸 緑川 喜久代 浦橋 久美子
			公衆衛生看護活動展開論	2	必	2			
			対象別支援技術論	2	必	2			
			公衆衛生看護管理論	2	必	2			
			産 業 保 健	1	必	1			
			学 校 保 健	1	必	1			
			公衆衛生看護学実習Ⅰ (市町村)	3	必		3		
			公衆衛生看護学実習Ⅲ (産業・学校)	1	必		1		

開講科目一覧（4年次）

分野	区分	履修年次	科 目 名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目			教 員 名
						単位数			
						前期	後期	通年	
教育 教養 科目	アドベンチストの 信仰と生活 語学の修得	4	ア セ ン ブ リ ー IV	1	必			1	東 出 克 己
		4	S D A 教 会 史	2	選		2		山 形 正 男
		4	英 語 Ⅲ (論 文 講 読)	1	選		1		新 妻 規 恵
専 門 教 育 科 目	看護の発展科目	4	看 護 管 理 学	1	選	1			鈴 木 啓 子 村 上 寛
		4	看護における補完療法	1	選		1		ドナルド ミラー
		4	看護診断・成果・ 介入のリンケージ	1	選	1			安 ケ 平 伸 枝
		4	災 害 看 護 学	1	選	1			齋 藤 正 子
		4	看 護 教 育 学	1	選		1		後 藤 佳 子
		4	卒 業 研 究	4	必			4	今 野 玲 子
		4	総 合 看 護 実 習	2	必			2	今 野 玲 子

＜保健師課程カリキュラム選択者＞

分野	区分	履修年次	科 目 名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目			教 員 名
						単位数			
						前期	後期	通年	
教育 専 門 科 目	公衆衛生看護学	4	地 域 ケ ア シ ス テ ム 論	2	必	2			浦 橋 久 美 子
		4	公衆衛生看護学実習Ⅱ (保健所)	1	必	1			緑 川 喜 久 代 子 浦 橋 久 美 子

研究活動報告

【基礎看護学・看護管理領域】

論文

- ・ 今野玲子・遠田きよみ・今井恵子・石井幸・後藤佳子・平野美理香・本郷久美子「看護大学と実習施設の看護教育における連携を目指して－臨床実習教員と臨床実習指導者の大切にしていること・役割・今後に向けた協働の取り組みについての認識－」『三育学院大学紀要』第11巻第2号, 37-50, 2019.3. (研究報告[査読付])

学会発表

- ・ 山口道子「看護大学生の緩和ケア実習におけるスピリチュアルケアに関する看護師の指導」第23回日本緩和医療学会学術大会, パシフィコ横浜, 2018.6.
- ・ 本郷久美子・遠田きよみ「アセスメントから診断までの実際のプロセスを体験しよう」第24回看護診断学会学術大会企画委員会事例セッション講師, 東京都 TFT ビル, 2018.7.

【母性看護学・小児看護学領域】

論文

- ・ 篠原良子「助産師の職場選択理由の実態と婚姻状況との関連－病院に勤務する中堅以上の助産師に焦点化して－」『三育学院大学紀要』第11巻第1号, 1-9, 2018.9. (研究報告[査読付])
- ・ 篠原良子「病院に勤務する中堅以上の助産師における就業継続の関連要因－配属先希望と継続意思に焦点をあてて－」『日本母子看護学会誌』第12巻第2号, 91-99, 2019.3. (報告[査読付])
- ・ 篠原良子「助産師の資格取得教育機関が就労状況に与える影響－病院に勤務する30代助産師に焦点をあてて－」『三育学院大学紀要』第11巻第2号, 27-36, 2019.3. (原著[査読付])
- ・ 市川光代・鈴木純恵・近藤かおり・山田よしみ・白木沙知「教職員から見た自大学看護学部学生の特徴と教育支援についての一考察」『三育学院大学紀要』第11巻第2号, 51-58, 2019.3. (活動報告)
- ・ 篠原良子「看護学生がもつ母性に対するイメージの経時的変化(第2報)－母性看護学領域における講義受講前から受講後まで－」『三育学院大学紀要』第11巻第2号, 59-63, 2019.3. (活動報告)

学会発表

- ・ 篠原良子「看護学生が抱く『母性』に対するイメージの変化－講義前後の自由記述分析から－」第20回日本母性看護学会学術集会, 埼玉県立大学, 2018.6.
- ・ 篠原良子「看護学生がもつ母性看護学に対するイメージ－色と言語表現に焦点化して－」第59回日本母性衛生学会学術集会, 朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター, 2018.10.

【成人看護学領域】

論文

- ・ 小田朋子・松本文美・處千恵美・山田亜美「領域別看護学実習におけるグループ形態が学生の学習に及ぼす影響－第2報 入替制グループで実習をした学生を対象に－」『三育学院大学紀要』第11巻第2号, 17-26, 2019.3. (原著[査読付])
- ・ 今野玲子・遠田きよみ・今井恵子・石井幸・後藤佳子・平野美理香・本郷久美子「看護大学と実習施設の看護教育における連携を目指して－臨床実習教員と臨床実習指導者の大切にしていること・役割・今後に向けた協働の取り組みについての認識－」『三育学院大学紀要』第11巻第2号, 37-50, 2019.3. (研究報告[査読付])
- ・ 市川光代・鈴木純恵・近藤かおり・山田よしみ・白木沙知「教職員から見た自大学看護学部学生の特徴と教育支援についての一考察」『三育学院大学紀要』第11巻第2号, 51-58, 2019.3. (活動報告)

学会発表

- ・松本文美・小田朋子・處千恵美・山田亜美「領域別看護学実習における入替制グループ編成による学生への影響」日本看護学教育学会第 28 回学術集会, パシフィコ横浜, 2018.8.
- ・處千恵美・村中陽子「臨地実習における看護系大学生の SNS による情報漏洩に至る心理的特徴」日本看護学教育学会第 28 回学術集会, パシフィコ横浜, 2018.8.

【老年看護学領域】

論文

- ・市川光代・鈴木純恵・近藤かおり・山田よしみ・白木沙知「教職員から見た自大学看護学部学生の特徴と教育支援についての一考察」『三育学院大学紀要』第 11 巻第 2 号, 51-58, 2019.3. (活動報告)

【精神看護学領域】

論文

- ・岡本隆寛・松本浩幸「買い物宅配サービスに取り組む精神障害者のリカバリーのプロセス - 人とつながり語りあうという体験を通して -」『三育学院大学紀要』第 11 巻第 2 号, 1-9, 2019.3. (原著 [査読付])

【地域看護学・公衆衛生領域】

論文

- ・小田朋子・松本文美・處千恵美・山田亜美「領域別看護学実習におけるグループ形態が学生の学習に及ぼす影響 - 第 2 報 入替制グループで実習をした学生を対象に -」『三育学院大学紀要』第 11 巻第 2 号, 17-26, 2019.3. (原著 [査読付])

学会発表

- ・松本文美・小田朋子・處千恵美・山田亜美「領域別看護学実習における入替制グループ編成による学生への影響」日本看護学教育学会第 28 回学術集会, パシフィコ横浜, 2018.8.
- ・工藤恵子・鈴木晃・浦橋久美子・大越扶貴・阪東美智子・高橋郁子・猪俣久美・網野寛子「教材 DVD『生活を俯瞰する見取り図の活用：在宅ニーズの理解のために』の制作と活用」第 77 回日本公衆衛生学会総会, 福島県郡山市ビッグパレットふくしま, 2018.10.
- ・大越富貴・工藤恵子・鈴木晃・浦橋久美子・阪東美智子・高橋郁子・猪俣久美「仮想事例を用いた事例検討会における見取り図活用の効果」第 77 回日本公衆衛生学会総会, 福島県郡山市ビッグパレットふくしま, 2018.10.

研究助成金 (文部科学省・厚生労働省・公的研究費・その他研究助成金)

- ・工藤恵子・鈴木晃・浦橋久美子・大越扶貴・阪東美智子・高橋郁子・猪俣久美 (研究代表者: 工藤恵子)「在宅生活ニーズ把握を目的とした多職種連携のための見取り図活用方法の開発」科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成: 基盤研究 B[一般]), 研究課題・領域番号 17H04472, 2017.4 ~ 2020.3.

【教養教育・専門基礎領域】

論文

- ・山本理「千葉県大多喜町久我原地区における、簡易花粉自動測定器を用いた 2017-2018 年度の花粉尘散状況」『三育学院大学紀要』第 11 巻第 1 号, 19-21, 2018.9. (活動報告)
- ・篠原清夫「『三育学院大学紀要』掲載論文における研究動向 - 第 1 巻 (2009) ~ 第 10 巻 (2018) の記録 -」『三育学院大学紀要』第 11 巻第 1 号, 23-30, 2018.9. (活動報告)
- ・篠原清夫「調査票調査における対象者の負担 - 身体的・精神的負担の検討 -」『三育学院大学紀要』第 11 巻第 2 号, 11-17, 2019.3. (原著 [査読付])

- ・ 新妻規恵・鶴岡章子「英文読解活動における看護学生の学び－副読本『国際看護へのパスポート 先輩ナースのアフリカ体験記から』読後のフィードバックの内容分析－」『三育学院大学紀要』第 11 巻第 2 号, 65-72, 2019.3. (活動報告)

学会発表

- ・ 篠原清夫「養護教諭における教育系・医療系出身の比較」日本教育社会学会第 70 回大会, 佛教大学, 2018.9.

調査報告書

- ・ 篠原清夫「教育センターにおける指導主事の資質・能力の特徴」猿田祐嗣編『「次世代の学校」実現に向けた教育長・指導主事の資質・能力向上に関する調査研究報告書（平成 30 年度プロジェクト研究＜「次世代の学校」における教員等の養成・研修、マネジメント機能強化に関する総合的研究＞報告書）』文部科学省国立教育政策研究所, 173-187, 192-195, 2019.3.

社会活動等報告

【基礎看護学・看護管理領域】

- ・ 本郷久美子「東京衛生病院 看護研究指導（新人・2年目看護師対象）」研究指導講師，2018.4～2019.3.
- ・ 遠田きよみ「NANDA- I 看護診断：定義と分類 2018-2020 の改定のポイント」東京衛生病院看護部師長対象講座，講師，2019.2.

【母性看護学・小児看護学領域】

- ・ 篠原良子「思春期健康教育（小学4～6年対象）」三育学院大学付属光風台小学校，講師，2018.5.
- ・ 山田よしみ「かけがえのない『生命』（中学2～3年対象）」沖縄三育中学校，講師，2018.6.
- ・ 篠原良子「長夷地区病院 看護研究研修会」千葉県看護協会長夷地区部会 研究指導講師，2018.5～11.
- ・ 山田よしみ「看護模擬授業（深沢進路の日）」東京都立深沢高等学校，講師，2019.3.

【成人看護学領域】

- ・ 今野玲子「第23回日本難病看護学会学術集会一般演題」査読者（4題），2018.4.
- ・ 鈴木純恵・近藤かおり「台湾アドベンチスト大学（Taiwan Adventist College）AAA評価（The Accrediting Association of Seventh-day Adventist Schools, Colleges, and Universities）」評価チーム参加，2018.5.

【老年看護学領域】

- ・ 市川光代「昭島病院 院内研究発表会」研究指導講師，2018.6～2019.2.
- ・ 市川光代「東京衛生病院 看護研究－質的研究の作法と進め方－（5年以上看護師対象）」研究指導講師，2018.12.
- ・ 市川光代・白木沙知「『悲嘆』について学ぶ」上智大学グリーンケア研究所主催グリーンケア公開講座修了（10回コース），2018.12.

【地域看護学・公衆衛生領域】

- ・ 浦橋久美子「夷隅地域・職域連携推進協議会」委員，2018.4～2019.3.
- ・ 緑川喜久代「予防接種を推進する会・ちば」世話人，2018.4～2019.3.
- ・ 小田朋子「呼吸疾患予防講演会－喫煙の危険性と抑止－（高校1年生対象）」神奈川県立川崎高等学校，講師，2018.10.
- ・ 小田朋子「喫煙防止教育（小学6年生対象）」東京三育小学校，講師，2018.10.
- ・ 浦橋久美子「かぜ・インフルエンザ予防のための手洗いについての健康教育」千葉県御宿町保健福祉課，多世代交流の仕組みづくり事業講師，2018.12.
- ・ 小田朋子「喫煙防止教育（小学6年生対象）」川崎市立古川小学校，講師，2018.12.
- ・ 浦橋久美子「千葉県保健活動業務研究発表会」千葉県健康福祉部健康づくり支援課，助言者，2019.2.

【教養教育・専門基礎領域】

- ・ 篠原清夫「日本学校教育学会機関紙」常任編集委員，2017.9～2019.8.
- ・ 篠原清夫「千葉県夷隅郡市広域市町村圏事務組合行政不服審査会」委員，夷隅郡市広域市町村圏事務組合（管理者 太田洋），2018.4～2020.3.
- ・ サムエル コランテン「大多喜町 英会話教室（一般対象）」（11回），大多喜町役場，講師，2018.4～2019.3.
- ・ 篠原清夫「国立教育政策研究所プロジェクト研究：『次世代の学校』における教員等の養成・研修、マネジメント機能強化に関する総合的研究」委員，文部科学省国立教育政策研究所，2018.6～2019.3.

- ・ サムエル コランテン 「Seminar on Curriculum and Instruction」修了, LIPA Adventist Academy (フィリピン), 2018.7.
- ・ 篠原清夫 「日本学校教育学会機関紙『学校教育研究』第34号投稿論文」査読者 (5投稿論文), 2019.2.

あしがき

初夏の候となりましたが、ここに『三育学院大学年報 2018 年度』を発刊し、皆様にお届けできることを嬉しく思います。

大学での教育・研究活動等を記録しておくことの重要性について以前より考えられていた鈴木純恵学部長より、2018 年度に発足した研究推進委員会に対し『年報』作成の依頼があり、委員会として紀要の編集・発刊とともに活動してまいりました。本学において初めて制作する『年報』であるため、どのような内容・構成にすれば良いか悩みながら検討してまいりました。このような状況下で制作が始まったため、資料収集過程においては年度末のお忙しい中、関係の皆様には大変ご迷惑をおかけしたことをお詫びするとともに、各情報をお寄せくださったこと心より感謝申し上げます。特に委員会活動報告のとりまとめについては学長秘書室の落合文子様、教育関係の情報については教務課長の平澤久美子様、研究・社会活動報告書の情報収集については学生課・学部事務担当の石渡美由紀様にご尽力をいただきました。紙面をお借りして改めて御礼申し上げます。

本学における委員会活動をみますと、教職員が多くの委員会に所属しているのにも関わらず積極的な活動をしていることが伺えます。また看護学部各領域の研究・社会活動等については、各先生方が学内外で幅広く励んでいることを改めて実感しております。

この記録を本学の委員会活動、教育活動および研究・社会活動等の更なる進展のためにご活用いただければ有難く存じます。

「かつて書かれた事柄は、すべてわたしたちを教え導くためのものです。それでわたしたちは、聖書から忍耐と慰めを学んで希望を持ち続けることができるのです。」

(ローマへの信徒の手紙 15 章 4 節)

研究推進委員会

委員長 篠原 清夫
處 千恵美
新妻 規恵
松本 文美
池増 信幸
落合 文子
中村 信一

三育学院大学年報 2018 年度

2019 年 9 月 5 日発行

編 集 三育学院大学 研究推進委員会

発 行 所 三育学院大学

〒 298-0297

千葉県夷隅郡大多喜町久我原 1500

TEL 0470-84-0111 (代表)

印 刷 デザインワークス

〒 299-4501

千葉県いすみ市岬町椎木 291-4

TEL 0470-62-6788 (代表)

Edited, published, and distributed by Saniku Gakuin College,
1500 Kugahara, Otaki-machi, Chiba-ken, 298-0297 Japan

